

○基本計画の名称：姫路市中心市街地活性化基本計画

○作成主体：兵庫県姫路市

○計画期間：平成21年12月から平成27年3月まで（5年4月）

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

〔1〕姫路市の概要

（1）概要

姫路市は、人口約53万人、面積約534km²を擁する中核市であり、人口は兵庫県下で神戸市に次ぐ規模で、面積は神戸市にほぼ匹敵する大きさとなっている。

市域の中心部にわが国で初めて世界文化遺産に登録された姫路城を擁し、戦国時代以降、城下町として今日の発展の基礎を築いてきた。明治初期の一時期には、姫路県、飾磨県の県都となり、その後、周辺市町村との合併を行いながら発展を続け、戦災からの復興や臨海部での工業地帯の形成などにより、常に播磨地域の中核都市としての役割を担い、平成8年には中核市に移行した。

また、国際観光都市として、姫路城をはじめ、西の比叡山と呼ばれる書写山円教寺、灘のけんか祭りや名高い播州の秋祭りなどの観光資源によって、国内はもとより海外からの観光客も多い。

（2）位置・地形等

姫路市は、兵庫県西部に広がる播磨平野の中央に位置し、神戸市から西へ約50km、岡山市から東へ約70kmの距離にある。東京～大阪～九州を結ぶ国土軸上に位置し、南は播磨灘に面し、中央の平野部を経て、市域北部は中国山地の東端にあたる山地になっている。

市内を南北方向に市川、夢前川が縦断し、両河川に挟まれた平野部に主要な都市機能が集積している。国土軸上に位置することから、東西方向にわが国の根幹をなす交通施設である山陽自動車道、中国縦貫自動車道、JR山陽新幹線・山陽本線をはじめ、国道2号などが市域を横断している。



(3) 沿革

姫路が播磨地域の中心になったのは、大化の改新の後（7世紀）に播磨国の国府が置かれたことに始まり、さらに8世紀中ごろに聖武天皇の勅命で国分寺が建立され、また、広峯神社や書写山円教寺などもこの時代に創建された。

室町時代になって播磨の豪族赤松氏によって姫山に砦が築かれ、その後、羽柴秀吉が三層の天守を持つ姫路城を築城し、その後、姫路に入った池田輝政が現在の姫路城を築き上げた。この築城は関ヶ原の合戦～大坂冬・夏の陣の間にあたり、戦国期が完全に終息していなかったことから、西日本の外様大名の反乱時における大坂を守る最後の砦として、

防御機能を重視した城郭・城下町構造をとった。これは、城郭のみではなく城下町全体を防御施設ととらえ、内曲輪、中曲輪、外曲輪を配して城下町全体を濠で囲う「総曲輪」の構造をとったもので、姫路城のほかは、江戸城、大坂城、小田原城、伏見城にしかないといわれている。



江戸時代の姫路城（内曲輪）



姫路城の内曲輪、中曲輪、外曲輪



明治30年代の姫路市中心部

明治期の廃藩置県により設置された姫路県や、その後の飾磨県時代における県庁所在地となっていたが、明治9年に兵庫県に編入された。明治21年には現在のJR山陽本線である山陽鉄道姫路駅が開業し、翌明治22年にはわが国の市制施行とともに姫路市が誕生した。その後、周辺市町村との合併を行いながら発展を続けてきたが、太平洋戦争による空襲を受け、姫路城は被害を免れたものの市街地の大部分を消失する壊滅的な打撃を受けた。

戦後、周辺市町村との合併を繰り返しつつ戦災からの復興を図り、昭和 30 年には戦災復興土地区画整理事業によって大手前通りをはじめとする現在の中心市街地の姿が形成され、昭和 43 年には人口が 40 万人を突破した。その後、昭和 47 年の山陽新幹線開通、平成 5 年の姫路城世界文化遺産登録、平成 8 年の中核市移行などを経て、平成 18 年に家島町、夢前町、香寺町、安富町との合併を行い、人口約 53 万人の新生・姫路市が誕生した。

〔2〕これまでの中心市街地活性化の取組と検証

本市は、平成 11 年 3 月に姫路駅北地区に国道 2 号北の商業集積地を加えたエリア 74ha を区域とした「姫路市中心市街地活性化基本計画」（旧基本計画）を策定しており、本基本計画の策定にあたり旧基本計画の評価・検証を行う。

（1）「まちづくり戦略」の実施・達成状況

旧基本計画では、「元気あふれる躍動のまち」を目指して、5 つの「まちの目標像」を設定し、「まちづくり戦略」を展開することとしている。旧基本計画策定から今日までに実施された事業等を踏まえ、「まちの目標像」の達成状況を以下に概観する。

○目標 1：世界をもてなす姫路の玄関口

観光関連のハード・ソフト事業が実施され、観光客も増加傾向にある。

一方、姫路城をはじめとする観光とまちづくりの一体化や相乗効果の発揮は必ずしも十分とはいえない状況にある。

○目標 2：人にも環境にもやさしいまち

道路のバリアフリー化実施、回遊ルート設定などの面では目標を達成しつつある。

また、大手前通りの「美しい街なみ形成」については、さらなる取組が望まれる。

○目標 3：播磨の中心商業地として多彩な賑わいのあるまち

播磨都市圏の広域商業中心地としての役割は揺るぎないものがあるが、郊外の大規模ショッピングセンターや神戸・大阪の都心部に比較して、商業魅力や時間消費型商業地としての魅力は相対的に低下傾向にある。

また、JR 姫路駅周辺での新たな商業等施設立地については、JR 山陽本線等連続立体交差事業等の期間変更もあり、現在引き続き検討・事業化が行われている。

○目標 4：住・職・商共存の誇りをもって暮らせるまち

マンション新築による住宅供給はあるものの定住人口は増加していない。

また、新たな都市型産業や業務施設等の立地・誘導が図られておらず、中心市街地内の事業所数も減少している。

○目標 5：街区毎、通り毎に個性豊かなまち

姫路城周辺では、観光なびポートやまちづくりステーションが整備され成果をあげているが、忍町等における都市型居住のモデル創出、キャスティ 21 への都市機能立地については実現できていない。

(2) 旧基本計画の数値目標の達成状況

① 中心市街地内人口

旧基本計画では、平成 20 年の中心市街地内人口の目標値を 4,800 人と設定しているが、平成 20 年実績値は 3,910 人となっており、目標の 81.5%に留まっている。しかしながら、平成 10 年時点での平成 20 年トレンド推計値である 3,600 人は上回っており、減少傾向は鈍化している。

旧基本計画の中心市街地内目標人口と実績値

旧基本計画における目標設定の考え方		
平成 10 年時点人口 (推計)	平成 10 年→平成 20 年トレンド人口推計値 3,600 人に対して、当時の人口を維持することを目標として設定	平成 20 年目標人口
4,740 人	→	4,800 人
		↓
平成 20 年人口実績値 (推計)		3,910 人 (目標値の 81.5%)

② 中心市街地小売商品販売額の全市シェア

旧基本計画では、平成 20 年の中心市街地内小売商品販売額の全市シェアを 20% (補正值*22%) と設定しているが、平成 16 年実績値は補正值 19%となっており、目標の 86.3% (補正值比較) に留まっている。しかしながら、平成 10 年時点での平成 20 年トレンド推計値である 14%は大きく上回る結果となっている。

旧基本計画の中心市街地内小売商品販売額全市シェアと実績値

旧基本計画における目標設定の考え方		
平成 9 年シェア実績値	平成 10 年→平成 20 年トレンド推計値 14%に対して、当時のシェアを維持することを目標として設定	平成 20 年目標シェア
19% (補正值 22%)	→	20% (補正目標値 22%)
		↓
平成 16 年シェア実績値		補正值 19% (補正目標値の 86.3%)

※旧基本計画対象区域のシェア算出が困難なため、補正值として城南・城巽小学校区の小売商品販売額を比較対象にすると、平成 16 年商業統計調査におけるシェア実績値の補正值は 19%となる。また両校区の平成 9 年商業統計調査のシェア実績値の補正值は 22%となるため、平成 20 年もこのシェアを維持することとして目標シェアを 22%とすると、平成 16 年シェア実績値の補正值の補正目標値に対する達成率は 86.3%となる。

※各時点の全市シェアは、平成 18 年の周辺町との合併前の市域に対するシェア。

(3) 旧基本計画に記載された事業の実施状況

旧基本計画では、市街地の整備改善、商業活性化を中心に計40の事業を設定している。市街地再開発事業における権利者の合意が得られなかったこと、事業主体や実施年度が確定していなかったこと、JR山陽本線等連続立体交差事業の事業期間変更などの要因により、平成21年3月時点で完了率27.5%、実施中比率35.0%となっており、これらを合わせ実施率62.5%となっている。

旧基本計画に記載の事業の進捗状況（平成21年3月現在）

	旧基本計画 記載事業数	完了		実施中		中止		未実施	
		事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合
市街地整備	19	4	21.1%	5	26.3%	0	0.0%	10	52.6%
商業活性化	12	5	41.7%	4	33.3%	1	8.3%	2	16.7%
その他	9	2	22.2%	5	55.6%	0	0.0%	2	22.2%
計	40	11	27.5%	14	35.0%	1	2.5%	14	35.0%

①市街地の整備改善のための事業

旧基本計画では、姫路駅周辺及び姫路城南側において3つの市街地再開発事業を位置付けている。このうち、お城本町地区市街地再開発事業は平成15年に完了し、男女共同参画推進センター（あいめっせ）、国際交流センター、コミュニティFM局（FM-GENKI）、市民ギャラリー、レストラン、物販店などが入居する総合施設「イーグレひめじ」として市民等に親しまれている。



お城本町地区市街地再開発事業
（イーグレひめじ）

道路整備については、JR山陽本線等連続立体交差事業の事業進捗と整合を図りながら進めていくものがほとんどであり、同事業の事業期間変更等の影響を受けて実施中・未実施のものもあり、本計画において引き続き推進していく必要がある。

これらのもの以外にも未実施の事業はあるが、本計画において継続すべき事業や新たに導入する事業などを適切に検討し、引き続き中心市街地における良好な景観・環境創出に向けて取り組んでいく必要がある。

②商業の活性化のための事業

多くの事業が完了または実施中の状況であり、駅前小溝筋商店街アーケード等整備事業や空き店舗活性化事業のように整備効果が具現化しているものもある。しかしながら、中心市街地の商業活性化が進展したとは必ずしもいえない状況にあるため、本計画において継続すべき事業や新たに導入する事業などを適切に検討し、引き続き商業活性化に取り組んでいく必要がある。

③その他の事業

観光関連、バス関連の多くの事業が完了または実施中である。本基本計画において

は、観光や公共交通に関する事業を単独で考えるのではなく、商業活性化や街なか居住における魅力増大などに関連させながら、中心市街地の総合的な魅力向上に資する事業として遂行していく必要がある。

旧基本計画に記載の事業の進捗状況（平成 21 年 3 月現在）

分類	事業名	進捗状況
①市街地の整備改善のための事業	1 お城本町地区市街地再開発事業	完了
	2 姫路駅西部地区市街地再開発事業	未実施
	3 (仮称) 姫路駅北口地区市街地再開発事業	未実施
	4 JR 山陽本線等連続立体交差事業 (山陽電鉄線)	実施中
	5 都市計画道路内々環状西線	実施中
	6 都市計画道路内々環状東線	未実施
	7 都市計画道路船場川線	実施中
	8 都市計画道路内環状東線	未実施
	9 新交通管理システム (UTMS) 整備事業	完了
	10 城南 20 号電線共同溝整備事業	完了
	11 高齢者等の活動空間の整備	実施中
	12 商店街等の道路空間のアメニティの向上	未実施
	13 船場川整備事業	未実施
	14 城南公園整備事業	未実施
	15 大蔵前公園整備事業	未実施
	16 姫路公園南部土塁緑道整備事業	完了
	17 生活道路の整備等	実施中
	18 就業の場及び良質な都市型住宅等の供給	未実施
	19 地区計画、建築協定、緑化協定、まちづくり協定	未実施
②商業等の活性化のための事業	1 駅前小溝筋商店街アーケード等整備事業	完了
	2 統一ファサード整備事業	未実施
	3 芸能文化拠点整備事業	未実施
	4 駐車場等整備事業	完了
	5 パティオのある共同店舗整備事業	中止
	6 空き店舗活性化事業	実施中
	7 多機能広域カード事業	完了
	8 商業タウン・マネジメント計画策定事業	完了
	9 大手前通り商業利用誘導方策事業	実施中
	10 活性化イベント事業	実施中
	11 情報発信強化事業	実施中
	12 回遊ルート開発事業	完了
③その他の事業	1 観光文化拠点整備事業	完了
	2 外国人観光客来訪促進事業	実施中
	3 ループバスの運行強化	実施中
	4 低床バスの増強	実施中
	5 大手前通り光のページェント	完了
	6 姫路サポーター制度	未実施
	7 観光ボランティア推進事業	実施中
	8 城巽公民館建設事業	実施中
	9 交番の整備	未実施

〔3〕 中心市街地の現状分析

※以降における中心市街地の区域は、本基本計画で設定する中心市街地の区域とする。

〔1〕 中心市街地の既存ストックの状況分析と有効活用の検討

① 歴史的・文化的資源

中心市街地には、姫路はもとよりわが国を代表する歴史的・文化的資源である世界文化遺産・姫路城が存在し、登閣者は年間約 102 万人（平成 19 年度）となっており、外国人登閣者も含め増加傾向にある。また、姫路城の周辺には、姫路城西御屋敷跡庭園・好古園や、歴史博物館、美術館、動物園、日本城郭研究センターなどが立地し、姫路城周辺における観光集客数は年間約 197 万人（平成 19 年度）となっている。

このほかにも中心市街地とその周辺には、多くの神社仏閣など多様な歴史的・文化的資源が存在し、観光資源としてだけではなく、祭りや年中行事によって地域住民等の交流の場として活用されているものも多い。特に、船場本徳寺や播磨国総社では「市」の開催や地域団体によるコンサートが開かれるなど、中心市街地への集客や地域の活性化に寄与している。

このような豊かな歴史的・文化的資源を活用し、観光集客はもとより商業とのタイアップによる新たな観光産業の創出や回遊性の向上を図り、これまで中心市街地を単に通過していた来訪者を街なかに呼び込み、滞留してもらう仕掛けづくりが求められる。

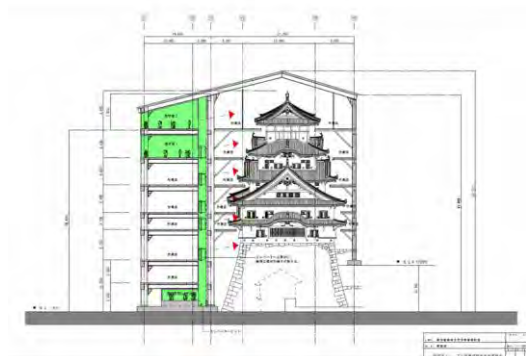
なお、姫路城は平成 21 年度から実施する「平成の大修理」により、大天守が素屋根で覆われ、街なかから眺望することができなくなるが、一方で保存修理作業を間近で見学できるようにするなど、「数十年に一度の貴重な見学機会」としてアピールし、さらなる集客を図っていく。



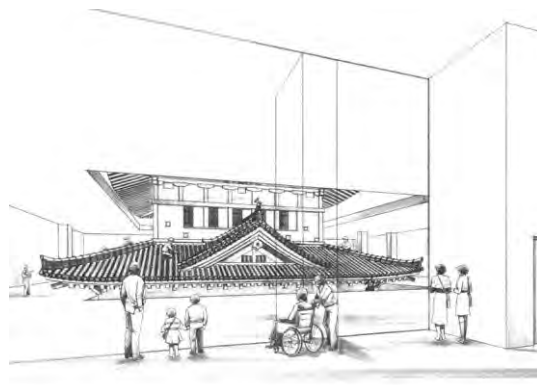
観光集客の核である姫路城とその周辺



船場本徳寺での楽市



姫路城「平成の大修理」における保存修理作業の見学イメージ



②景観資源

本市では、まちのシンボルであり資産でもある姫路城を中心とした都市景観の保全や良好な景観創出に向けて、昭和62年に「都市景観条例」を制定したが強制力が弱く、より実効的な方策を検討していた。その中で、平成16年に「景観法」が施行され、法的な裏づけが付与されたため、平成19年に「姫路市景観計画」を策定し、平成20年4月1日より施行した。

景観計画によって、これまで条例で都市景観形成地区に指定していた大手前通り等の3つの道路沿道地区に加え、姫路城周辺を新たに「風景形成地域」に位置付け、建築物や工作物の新築・増築等に対して、色彩や形態・意匠に関わる基準が厳格化されることになった。

このような取組を積極的に推進し、美しい都市景観を後世に継承しながら、住み・訪れて気持ちの良いまちづくりを進めていく。



中濠通り地区



大手前通り地区



駅南大路地区

姫路市景観計画における都市景観形成地区と姫路城周辺風景形成地域

③社会資本

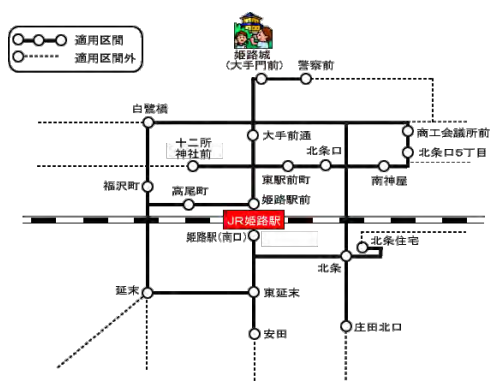
本市の中心市街地は、かつて曲輪内に位置したことから、古くから碁盤の目状に道路が整備されていた。しかしながら、太平洋戦争による戦災で大部分の市街地が消失し、昭和20年代の大規模な戦災復興土地区画整理事業によって現在の姿となった。同事業によって、当時では先進的な広幅員街路である大手前通りが整備され、「日本の道百選」にも選出された本市のシンボルロードとしての役割を今日も担っている。また、JR山陽本線南側では、同じく土地区画整理事業によって駅南大路の整備をはじめとして整然とした街区が形成され、近代的なまちなみを呈している。

しかしながら、これらの街路については、沿道は業務機能などを中心とした利用がなされていることから、にぎわいの点では必ずしも中心的な役割を果たしているとはいえ、今後、さらなる景観・環境面での施策とあわせて、沿道への商業・交流機能等の立地を促進するなどの施策の展開が望まれる。

中心市街地内の公園は、土地区画整理事業等によって計画的に配置・整備されているものの、周辺居住者が多くないことなどから、利用者は概して少ない。

公共交通は、本市の中心駅となるJR姫路駅及び山陽電鉄姫路駅が存在し、市周辺部や他都市からの玄関口となっているが、中心市街地内の移動はバスが中心となる。中心市街地内では神姫バスと市営バスの2つの事業者によって運行されているが、バスの利用者数は減少傾向にある。このため、異なるバス事業者間の共通一日乗車券やJRとバスの連絡定期券などに加え、姫路駅を中心とした1km圏内での路線バス「100円運賃制度」、100円で乗車できる姫路城周辺観光ループバスの運行などを実施し、利用促進を図っている。なお、平成21年度末をもって、市営バスの全路線が神姫バスに移譲されることになっている。

また、鉄道とバスの交通結節点となる姫路駅北口では、バス事業者ごとに乗り場が異なるとともに、JR姫路駅との乗換え利便性も良好ではなく、現在、姫路駅周辺土地区画整理事業等によって新たな駅前広場整備が進められつつあり、交通結節性が大きく向上する予定である。



姫路駅を中心としたバス100円運賃区間



姫路城周辺観光ループバス

④産業資源

本市では、長い歴史を経て多くの地場産業・伝統工芸が形成され、皮革、そうめん、菓子、明珍火箸などが特に有名であるが、主な生産拠点は中心市街地外となっている。

中心市街地とその外縁部には、播磨地域の中核都市として業務機能が集積し、信用金庫3社の本店をはじめ大手企業の支店・営業所等、全国紙やNHKなどの支局が置かれている。

また近年では、本市の西に位置するたつの市、上郡町、佐用町で整備が進む播磨科学公園都市の母都市として、先端科学技術に関連する産業集積を進めようとしている。

(2) 地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

①人口動態に関する状況

1) 人口減少が継続する中心市街地

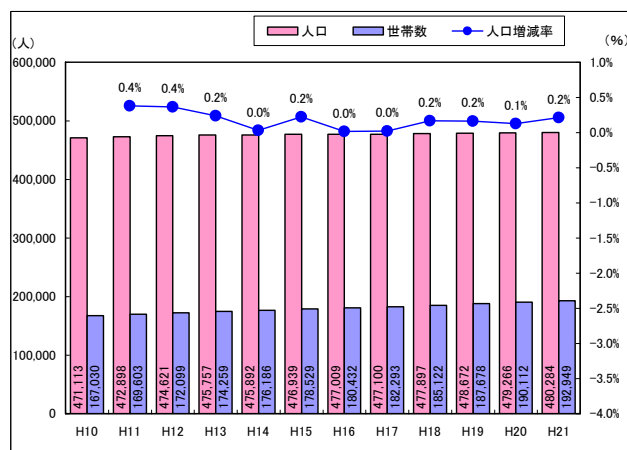
市全体（平成18年合併前市域）の人口は、わずかではあるものの増加傾向にあり、平成10年に対する平成21年人口は1.9%増加となっている。

一方、中心市街地では増減の波があるものの大きくは減少傾向にあり、平成21年人口は平成10年に比べ10.1%減少し、合併前の市全体に占める割合も、2.0%から1.7%に低下している。

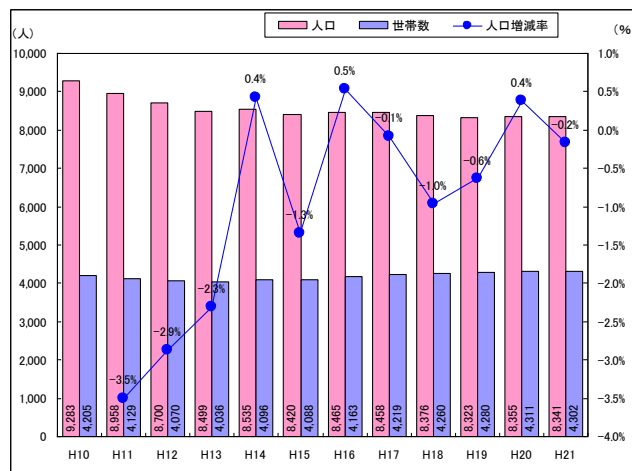
世帯数については、平成10年から平成21年の間に、市全体では15.5%増加しているのに対し、中心市街地では2.3%増に留まっている。

2) 市全体に比べても世帯の小規模化が進展する中心市街地

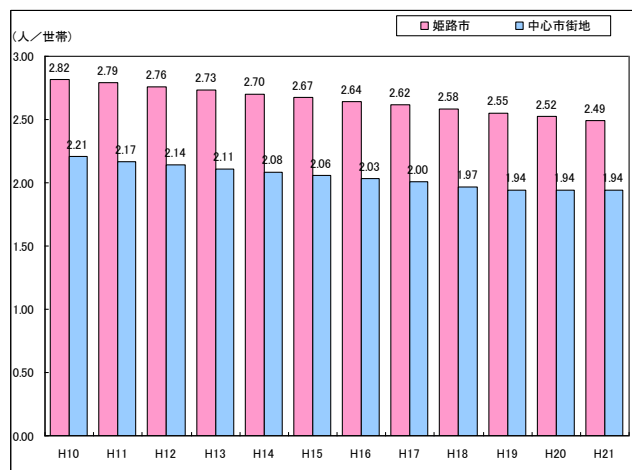
世帯人員は、市全体、中心市街地ともに減少傾向にあるが、世帯の規模では、平成21年市全体の2.49人／世帯に対して中心市街地は1.94人／世帯であり、世帯の小規模化が進展している。



姫路市（平成18年合併前市域）の人口・世帯数と人口増減率



中心市街地の人口・世帯数と人口増減率



姫路市全体と中心市街地の世帯人員の推移

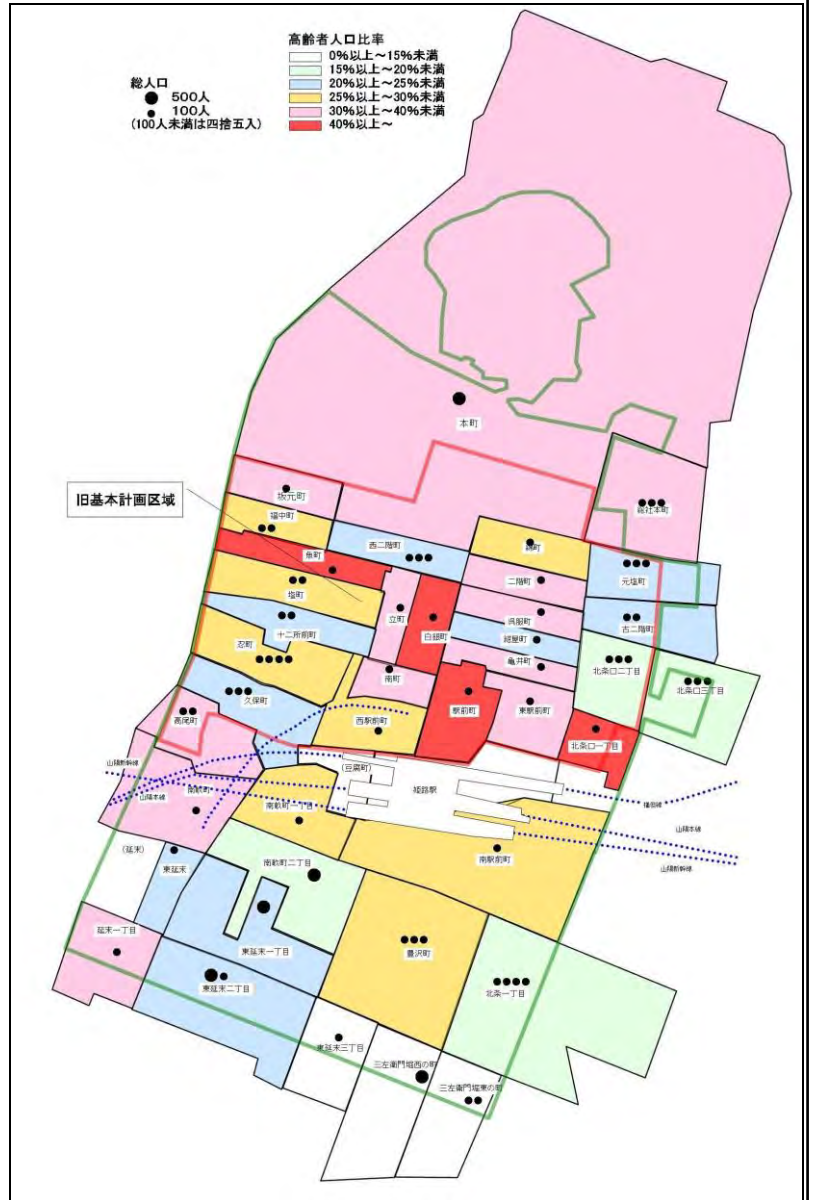
資料：姫路市統計要覧（町別住民基本台帳登録人口）

3) 市全体に比べても高齢者人口比率が高い中心市街地

市全体(平成18年合併前市域)の高齢者人口(65歳以上)は増加傾向にあるのに対して、中心市街地ではほぼ横ばい状態で推移している。

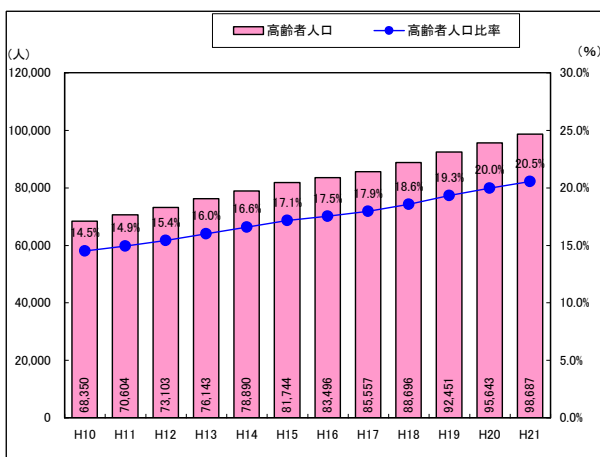
一方、高齢者人口比率は、市全体が平成10年の14.5%から平成21年には20.5%に達して高齢社会(高齢者人口比率14%~21%)を迎えているのに対し、中心市街地ではこれを上回る22%~25%程度で推移しており、超高齢社会(高齢者人口比率21%以上)となっている。

中心市街地の高齢者人口比率を町別にみると、JR姫路駅北側に広がる古くからの商業・業務地での比率が総じて高く、同駅南側や北東周縁部では低くなっており、中心市街地内でも地区によって異なる性格を有していることがわかる。

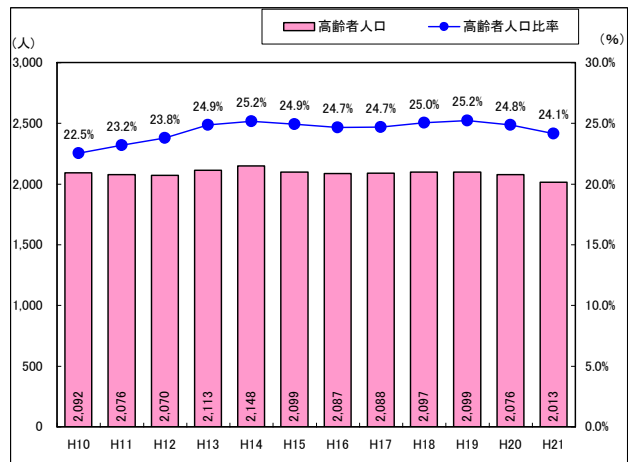


町別の高齢者人口比率(平成21年)

資料: 姫路市統計要覧(町別住民基本台帳登録人口)



姫路市全体の高齢者人口と同比率



中心市街地の高齢者人口と同比率

資料: 姫路市統計要覧(町別住民基本台帳登録人口)

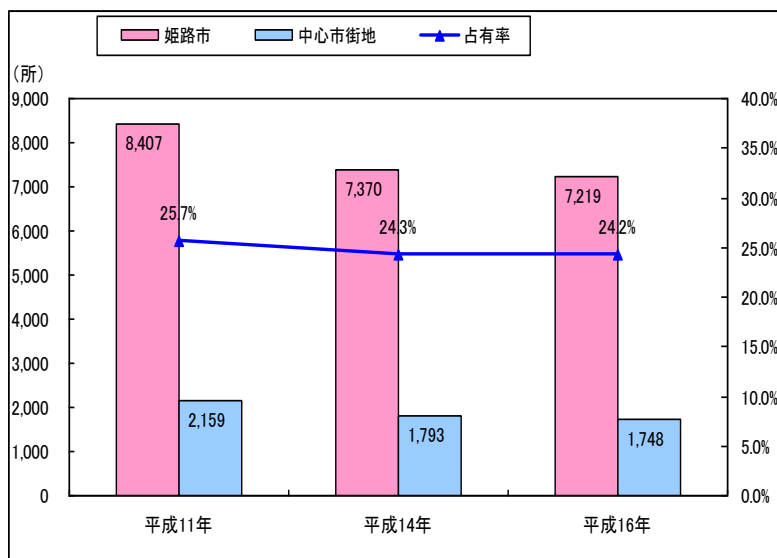
②商業に関する状況

1) 市全体の商業指標が減少傾向にある中で、さらに大きく低下する中心市街地

市全体において、小売・卸売業の事業所数、年間商品販売額ともに減少傾向にあり、特に平成11年から平成14年の間に大きく減少した。

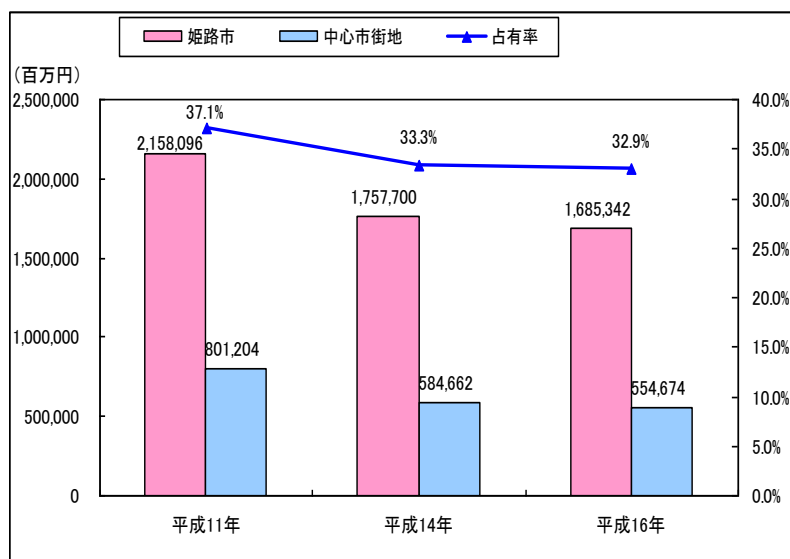
中心市街地では、市全体の減少傾向を上回る勢いで減少傾向にあり、特に年間商品販売額での占有率の減少が顕著である。

中心市街地の市全体に対する占有率は、平成16年時点において事業所数で24.2%、年間商品販売額で32.9%となっている。



小売・卸売業の事業所数と中心市街地占有率の推移

資料：商業統計調査



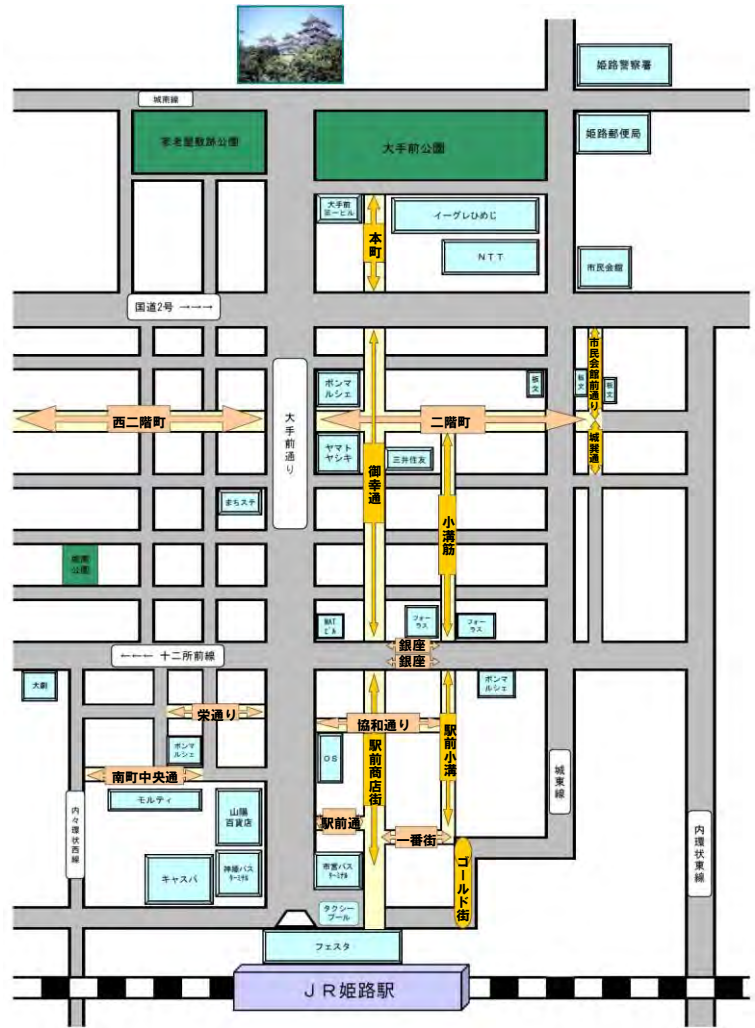
小売・卸売業の年間商品販売額と中心市街地占有率の推移

資料：商業統計調査

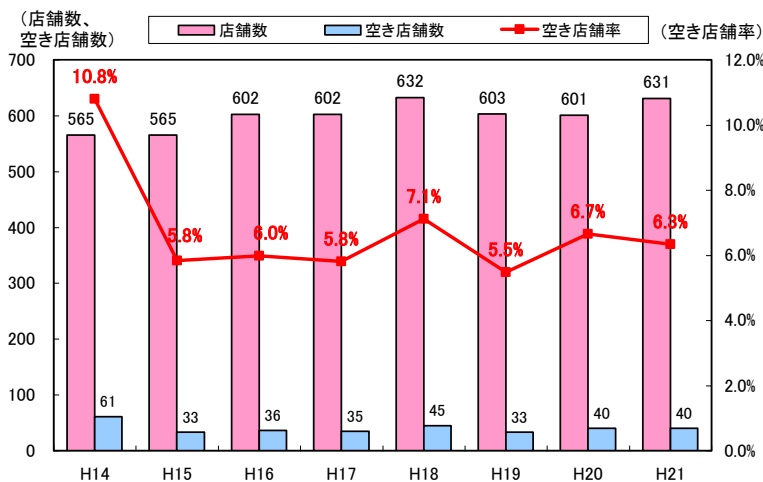
2) 空き店舗数は一時期に比べて減少し、現在は横ばい状態

中心市街地内にある商店街の空き店舗数は、平成14年に61店舗であったが、平成15年以降は概ね30台半ばで推移してきた。しかしながら、直近の平成20年、平成21年共に空き店舗数はやや増加し、40店舗となっている。

なお、商店街の店舗数に占める割合は、平成15年以降、5～7%で推移している。これは姫路商工会議所によって実施された空き店舗対策事業の効果と考えられる。



姫路市中心市街地商店街位置図



中心市街地商店街における店舗数と空き店舗数推移

資料：店舗数は兵庫県団体名簿など、空き店舗数は姫路商工会議所・姫路市調査

商店街名	平成21年 空き店舗数
本町商店街（振）	2
西二階町商店街（振）	9
二階町商店街（振）	5
御幸通商店街（振）	6
小溝筋商店街（振）	4
銀座通り商店街	0
姫路駅前商店街（振）	3
駅前小溝商店街（振）	0
駅前協和通り商店会	0
一番街商店街	1
駅前通り商店会（フラワー）	1
ゴールド街	—
南町栄通り商店会	4
南町中央通商店街	0
市民会館前通り振興会	2
城巽通商店街	3
合計	40

商店街別の空き店舗数（平成21年）

3) 中心市街地への大規模小売店舗の実質的な新規立地は、JR 姫路駅高架下のプリエ姫路出店まで 37 年間なく、他方郊外では活発な出店が続いた

平成 21 年 3 月現在、中心市街地には大規模小売店舗(1,000 m²以上)が 13 店舗ある。

1,000 m²程度の規模を除けば古くから立地している店舗が多く、比較的新しいフォーラスでも昭和 46 年の出店であった。平成 17 年にはボンマルシェが出店したが、これは平成 14 年のダイエー閉鎖後の跡地に進出した姫路ひろめ市場が平成 16 年に閉鎖となったところに出店したものである。

このように中心市街地では、37 年間も大規模小売店舗の実質的な新規立地がなかったが、姫路駅周辺では、平成 20 年 12 月にプリエ姫路が JR 姫路駅高架下に新規出店し、引き続き、新駅ビル等の大規模小売店舗の整備が予定されている。また、姫路駅南西地区への大規模小売店舗の立地が予定されている。

	店舗名称	業態	店舗面積 (m ²)	開店日
1	ヤマトヤシキ姫路店	百貨店	17,051	S22.3
2	山陽百貨店	百貨店	27,488	S28.7
3	銀ビルストアー (ボンマルシェ) 姫路店	スーパー	2,990	S31.5
4	姫路駅ビル フェスタ	寄合専門店	3,458	S34.11
5	板文インテリアセンター	家具	1,469	S34
6	フォーラス	専門店	14,652	S46.6
7	むつみ家具	家具	2,980	S47
8	板文婚嫁家具センター本店	家具	1,132	S47.3
9	洋服の青山 姫路店	紳士服	1,096	S54.10
10	板文プライダルセンター	家具	1,484	H3.9
11	板文ハウジングセンター	家具	1,546	H7.12
12	ボンマルシェ大手前店 (スクエアビル)	スーパー・本・CD	2,988	H17.5
13	プリエ姫路	ショッピングセンター	5,613	H20.12
	合計	—	83,947	—

中心市街地における大規模小売店舗と開店時期

資料：大規模小売店舗立地法届出 (平成 21 年 3 月現在)

	件数	比率	店舗面積 (m ²)	比率
姫路市全体	82	100.0%	431,324	100.0%
中心市街地	13	15.8%	83,947	19.4%

姫路市全体と中心市街地の大規模小売店舗数と店舗面積

資料：大規模小売店舗立地法届出 (平成 21 年 3 月現在)

一方、本市及び周辺においては、平成 12 年の「大規模小売店舗立地法」施行後、数多くの大規模小売店舗が立地しており、中心市街地では 3 店舗だけである店舗面積 10,000 m²以上の出店が大手資本などによって数多く行われている。



姫路市及び周辺における大規模小売店舗 (店舗面積 10,000 m²以上)

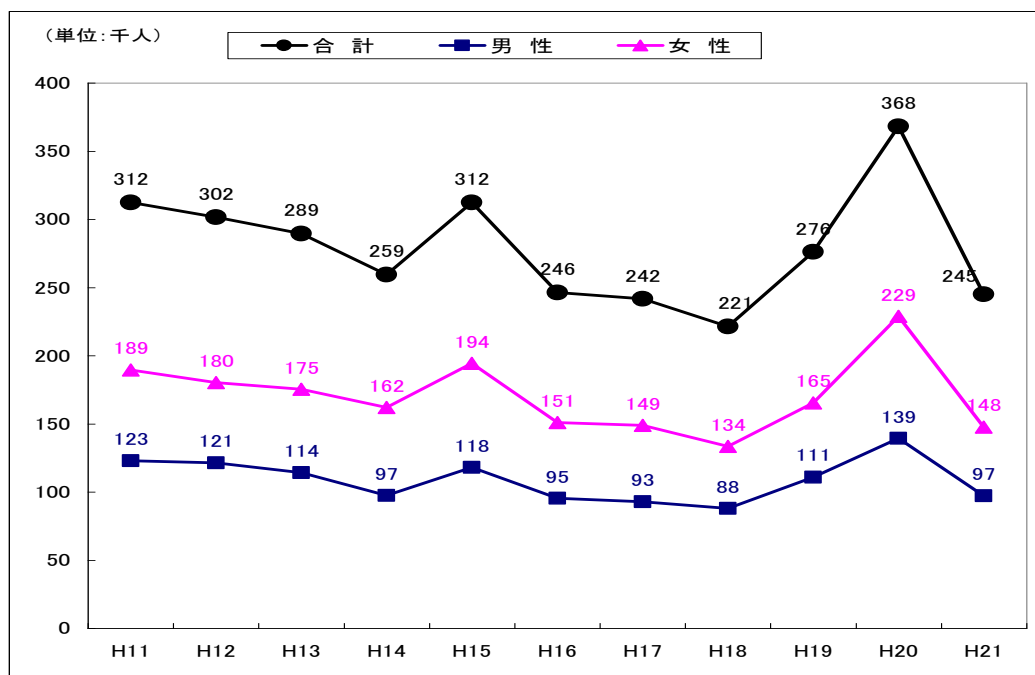
資料：大規模小売店舗立地法届出 (平成 21 年 3 月現在)
 周辺は全国大型小売店総覧 2008、大規模小売店舗立地法届出 (平成 21 年 3 月現在)

4) 中心市街地の歩行者・自転車通行量は漸減傾向となっている

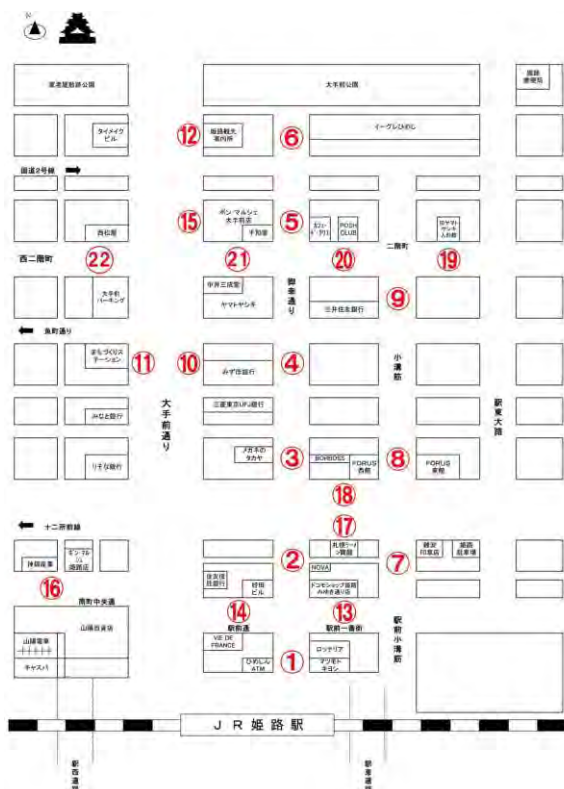
JR 姫路駅北側の中心市街地における歩行者・自転車通行量は漸減傾向となっている。

なお、平成 20 年の数値が大幅な増加となっているが、これは、「第 25 回全国菓子大博覧会・兵庫」の開催（平成 20 年 4 月 18 日～5 月 11 日）の影響によるものと考えられる。

【参考】「第 25 回全国菓子大博覧会・兵庫」の総入場者数：922,000 人（うち 4 月 29 日の入場者数：50,400 人）



中心市街地商店街における歩行者・自転車通行量の推移（各年 4 月 29 日調査 下図調査地点計）



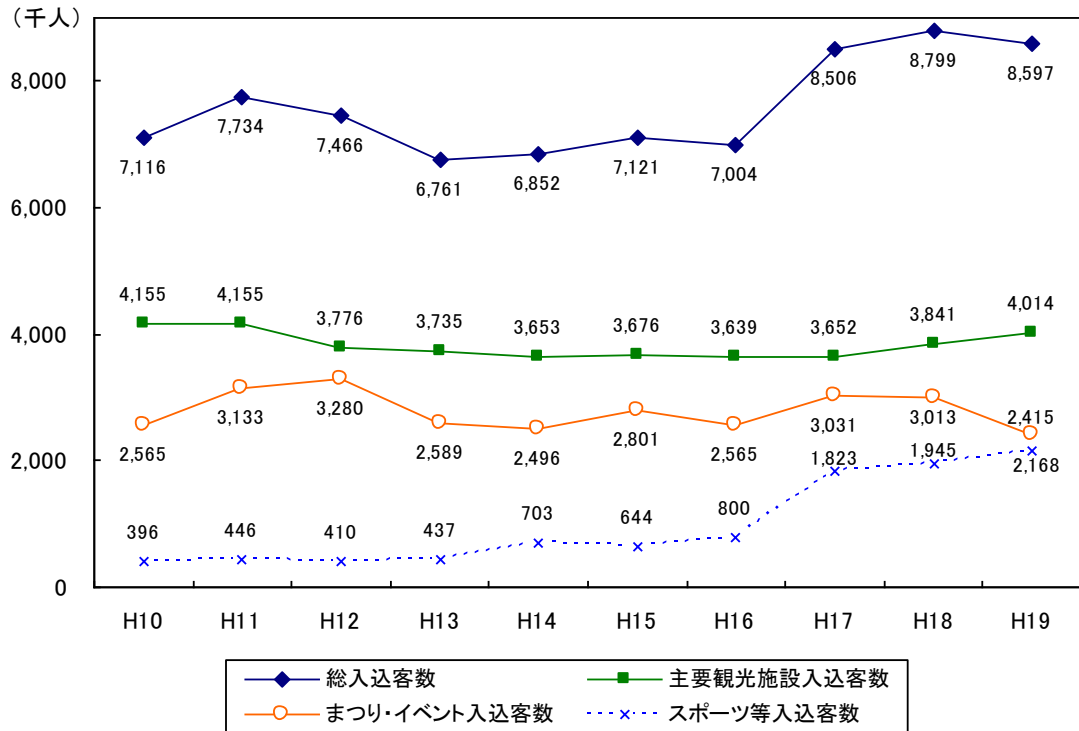
- ① 駅前商店街(ひめしん ATM コーナー前)
- ② 駅前商店街(ECC 前)
- ③ 御幸通商店街(BORBOSS 前)
- ④ 御幸通商店街(みずほ銀行東)
- ⑤ 御幸通商店街(カフェド・クリエ西)
- ⑥ 本町商店街(イーグレひめじ西)
- ⑦ 駅前小溝商店街(難波印章店前)
- ⑧ 小溝筋商店街(FORUS 西館東)
- ⑨ 小溝筋商店街(三井住友銀行東)
- ⑩ 大手前通り・東(みずほ銀行西)
- ⑪ 大手前通り・西(まちづくりステーション東)
- ⑫ 大手前通り・東(姫路市観光交流推進室前)
- ⑬ 一番街商店街(ドコモショップ姫路みゆき通り店南)
- ⑭ 駅前通商店会(VIE DE FRANCE 前)
- ⑮ 大手前通り・東(ボン・マルシェ大手前店西)
- ⑯ 南町中央通商店街(神畑産業南)
- ⑰ 銀座商店街(札幌ラーメン寶龍前)
- ⑱ 銀座商店街(FORUS 西館南)
- ⑲ 二階町商店街(旧ヤマトヤシキ人形館前)
- ⑳ 二階町商店街(POSH CLUB 前)
- ㉑ 二階町商店街(ヤマトヤシキ北)
- ㉒ 西二階町商店街(西松屋南)

資料：中心商店街通行量調査

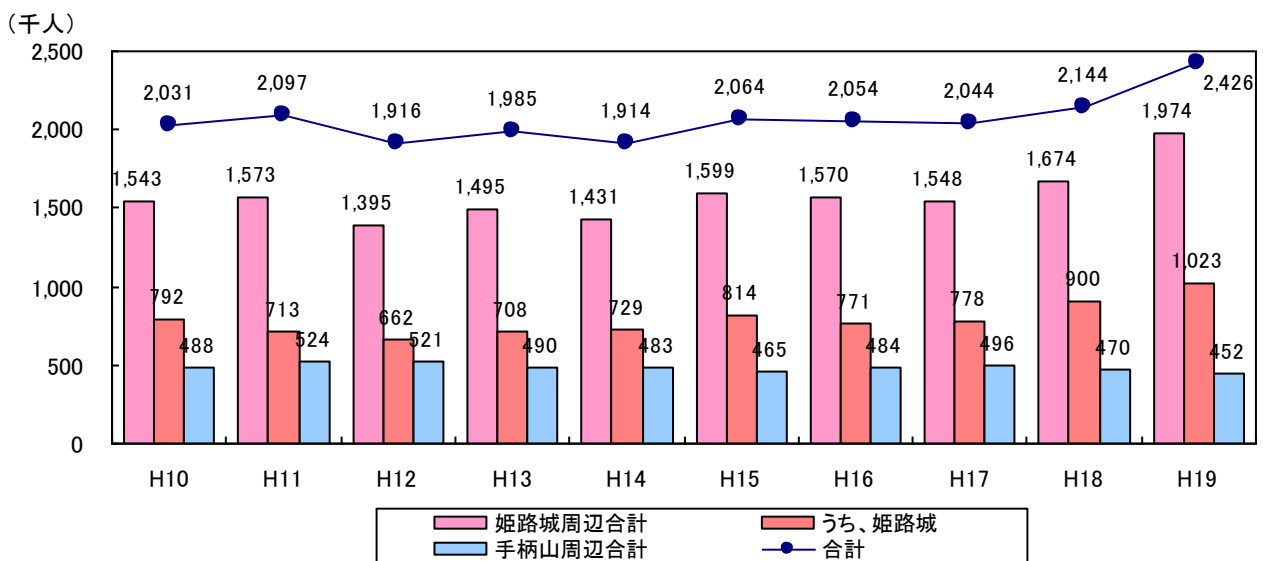
③観光に関する状況

1) 市全体の観光目的入込客数の半分弱は、中心市街地内の姫路城周辺となっている

本市への近年の総入込客数は、年間約 800 万人台で推移している。平成 19 年度においては、主要観光施設入込客数が約 401 万人であり、うち姫路城周辺地域には約 197 万人（49%）の入込客があった。このうちの 52%にあたる約 102 万人が姫路城の登閣者であり、市内最大の観光集客施設となっている。また、姫路城登閣者数は近年増加傾向にある。



姫路市総入込客数の推移（平成 17 年度以降は旧 4 町分を含む）



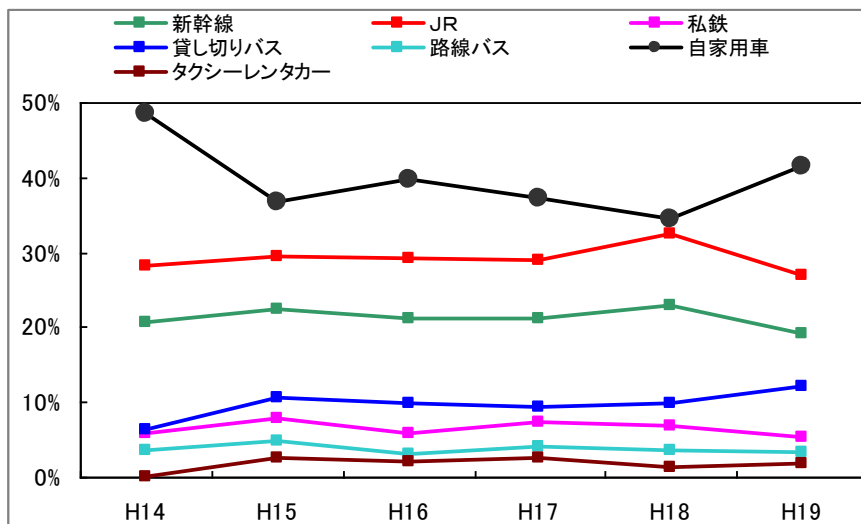
中心市街地に関連する主要観光施設の入込客数の推移

資料：姫路市入込客数・姫路市観光アンケート調査

2) 観光目的で増加する鉄道利用

本市への観光目的来街者の利用交通手段では、鉄道が合計 50%を占めており、近年微増傾向にあったが、平成 19 年度は若干の落ち込みを示し、自家用車や貸し切りバスが増加している。

この数値をもとにすると、姫路城周辺地域観光客の約半分は JR・山陽電鉄姫路駅から中心市街地を経由して目的地まで移動していることとなり、これら観光客のニーズを取り込んだ商業展開を図っていくことが重要となる。



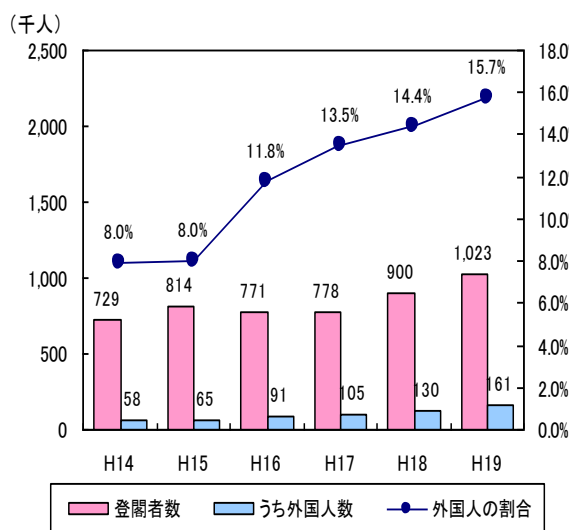
姫路市への観光目的来街者の利用交通手段の推移

資料：姫路市入込客数・姫路市観光アンケート調査

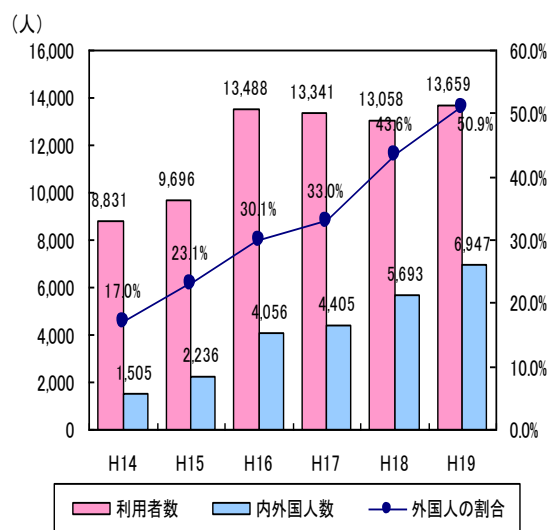
3) 外国人観光客の増加と街なか回遊

平成 5 年に姫路城がわが国初の世界文化遺産に登録されたことから外国人観光客の増加が目立ち、ビジット・ジャパン・キャンペーンやミシュラン社の旅行ガイドで三つ星に選ばれたこともあり、姫路城外国人登閣者は平成 19 年度で 16 万人に及び、増加傾向を示している。

また、観光レンタサイクル利用者に占める外国人の割合も急増していることから、外国人観光客に対応した商業等のあり方も中心市街地活性化の課題と考えられる。



姫路城登閣者数の推移



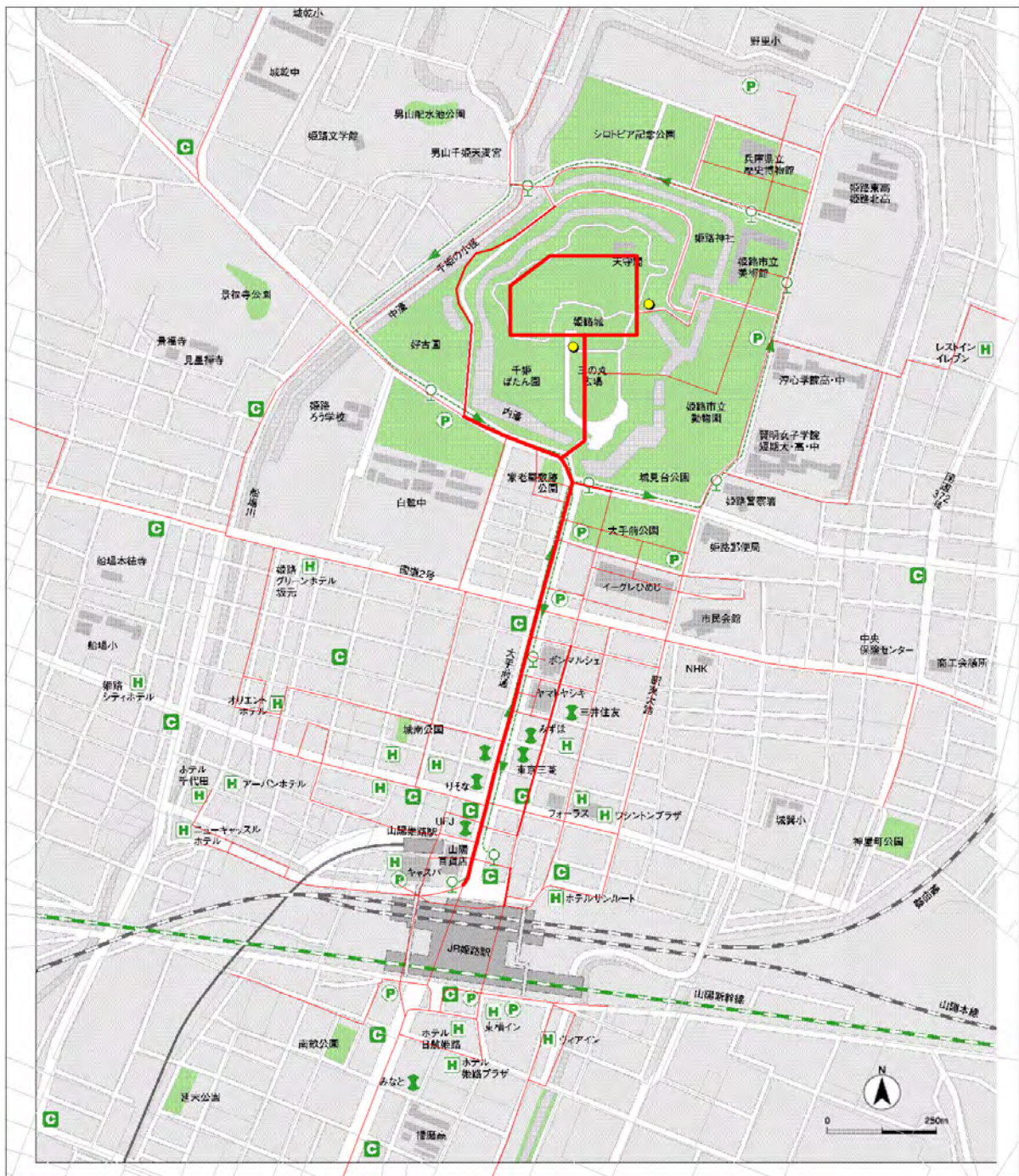
観光レンタサイクル利用者数の推移

資料：姫路市入込客数・姫路市観光アンケート調査

姫路城登閣者の移動経路をみると、大部分が姫路駅と姫路城を直線的に結ぶ大手前通りや御幸通りを利用しており、中心市街地を回遊しているとはいえない状況にある。このため、街なか回遊の創出に向けて、商店街を中心に観光客が歩いて楽しく、寄り道したくなる魅力向上が課題になるとともに、利用者が最も多い大手前通りへのにぎわい機能の導入なども求められる。



(集計対象人数=2,297人)



姫路城登閣者の街なか回遊状況

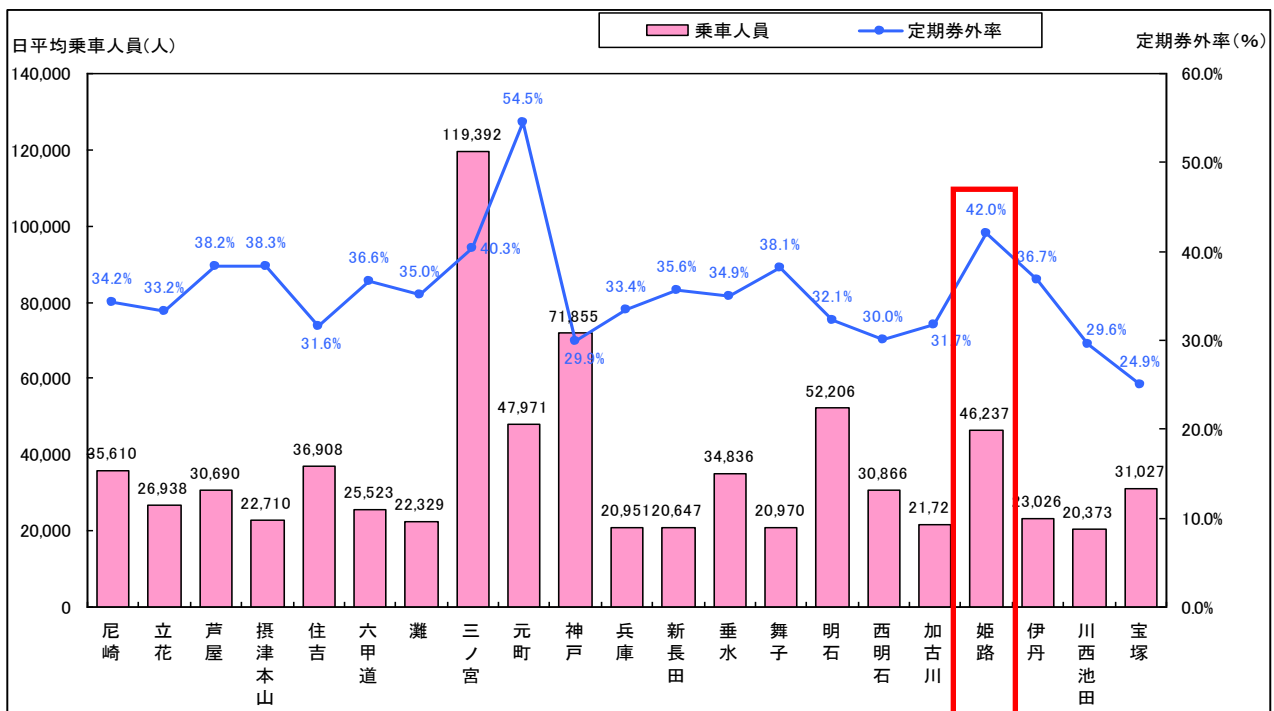
資料：姫路城の回遊調査の集計結果（平成18年12月、兵庫県県土整備部まちづくり局都市計画課）

④交通に関する状況

1) 兵庫県下でも有数の乗車人員を有する姫路駅ではあるが、近年は漸減傾向

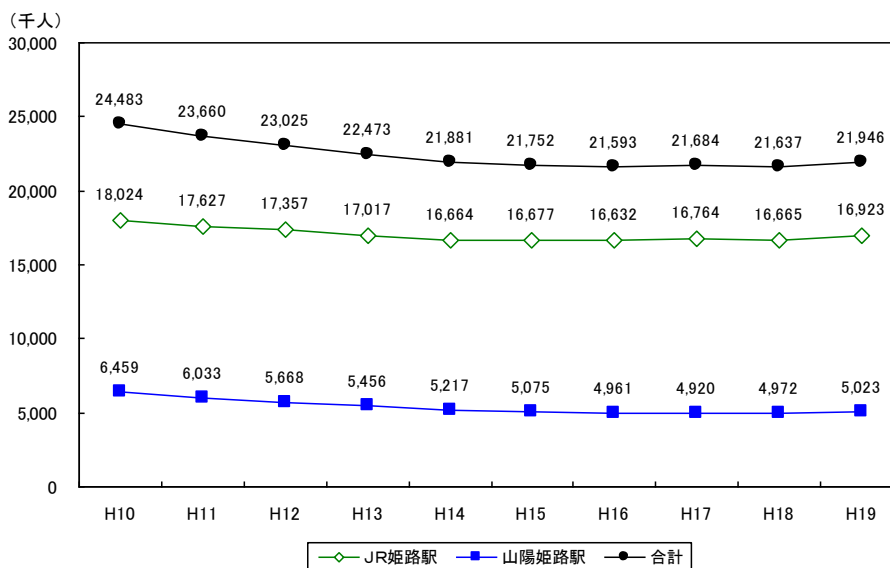
JR 姫路駅の日平均乗車人員は、兵庫県下の JR 駅では三ノ宮、神戸、明石、元町に次ぐ 5 番目となっている。また、全乗車人員に対する定期券を利用しない乗車人員の割合は、県下 JR 主要駅の中では元町に次ぐ 2 番目の高さとなっており、観光・買物などの自由目的、業務目的等の利用者比率が高いことがわかる。

一方、姫路駅の利用者数を鉄道駅乗車人員で経年的にみると、JR 姫路駅、山陽電鉄姫路駅ともに漸減傾向にあり、特に山陽電鉄姫路駅は平成 10 年度から平成 19 年度の間約 78%まで大きく落ち込んでいる。



兵庫県下の主要 JR 駅における日平均乗車人員と定期券外率（平成 19 年度）

資料：兵庫県統計書（平成 19 年）



JR 及び山陽電鉄姫路駅の年間乗車人員の推移

資料：姫路市統計要覧

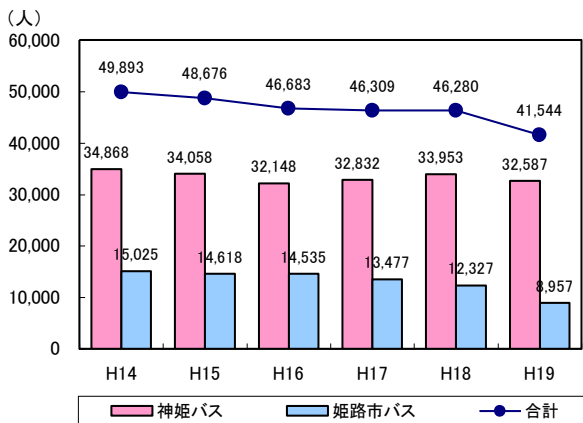
2) 路線バスの利用は漸減傾向であるが、中心市街地を回遊する観光ルートバスは好調

市内の路線バスは、神姫バス、市営バスの2事業者によって運行されているが、利用者数は漸減傾向にあり、平成19年度の一日あたり平均利用者数は約41,500人となっている。

一方、100円で利用できる姫路城周辺観光ルートバスが、姫路駅を起点に姫路城内曲輪を周遊し姫路駅に戻るルートを実行しており、運行本数、乗車人員ともに順調に増加している。

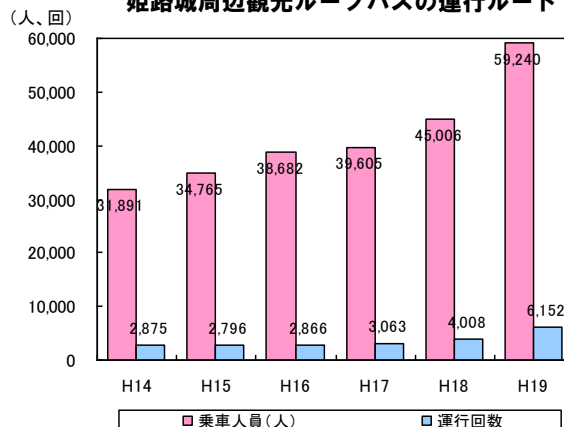


姫路城周辺観光ルートバスの運行ルート



姫路市における路線バスの一泊あたり利用者数推移

資料：姫路市統計要覧



姫路城周辺観光ルートバスの運行実績推移

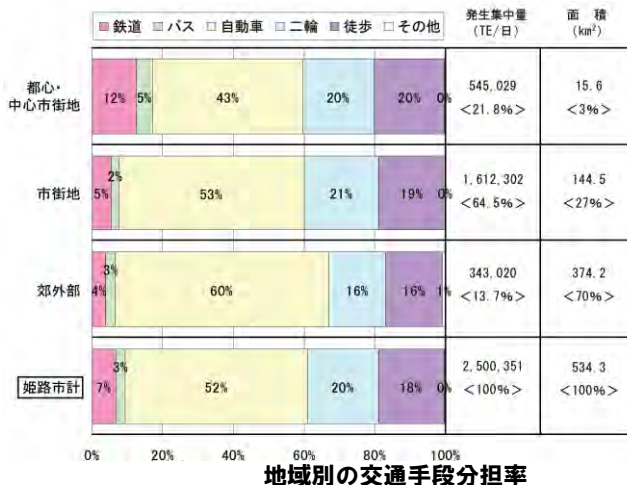
資料：姫路市入込客数・姫路市観光アンケート調査

3) 中心市街地ではあるが、自動車への依存度が高い交通特性

都心・中心市街地における代表交通手段分担率は、自動車が43%で最も高く、以下、二輪、徒歩と続いている。市内他地域に比べ、鉄道が12%、バスが5%と公共交通機関の比率が高いものの、自動車の比率が半分近くを占めており、自動車への依存度が高い。また、高密度に交通が発生集中しているため、都心部には大量の自動車交通が流入している。



姫路市の地域分類



地域別の交通手段分担率

資料：播磨都市圏パーソントリップ調査（調査年度：平成18年度）

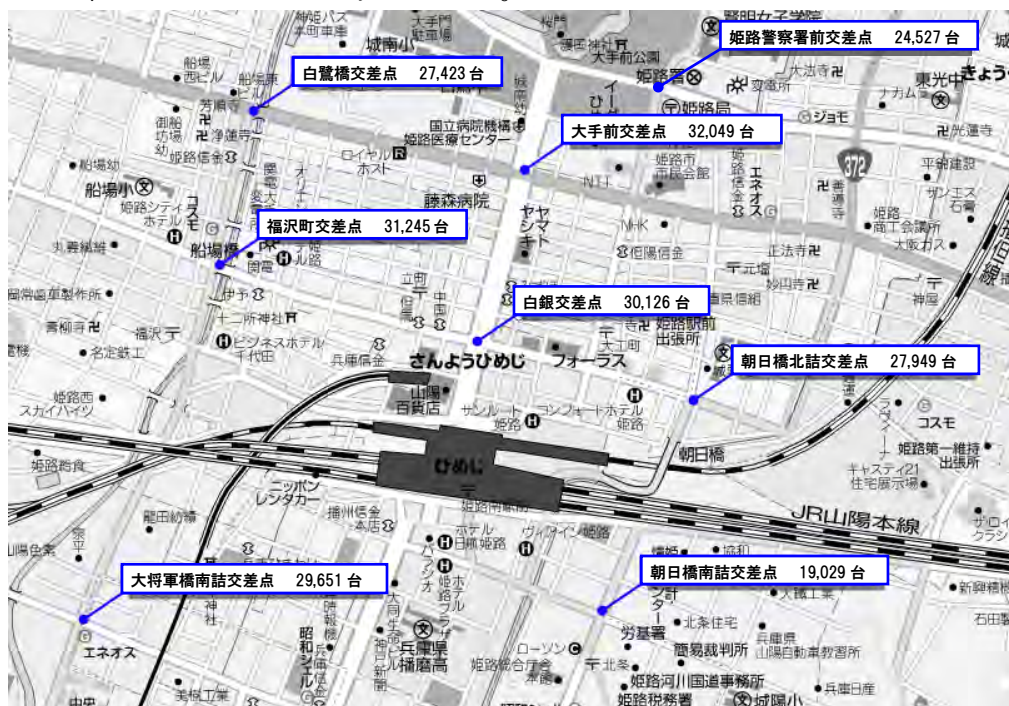
※発生集中量：ある地域から出発するトリップ数（発生量）と、その地域へ到着するトリップ数（集中量）の合計。発生集中量の場合、発地点と着地点の合計であるため、単位はトリップエンド（TE）となる。

※トリップ：人がある目的をもってある地点からある地点へ移動する単位。

※トリップエンド（TE）：1つのトリップの出発地と到着地。

4) 中心市街地の自動車分担率は高いものの、自動車交通量は漸減傾向を示す

都心・中心市街地における代表交通手段分担率は自動車が43%ではあるものの、主要交差点での自動車交通量は概して漸減傾向にある。この理由としては、通過交通が中心市街地を利用しなくなった、中心市街地を起終点とする交通量そのものが減少している、といったことが考えられる。



	調査地点	平成8年度	平成12年度	平成16年度	平成20年度
1	白銀交差点	37,323	32,540	32,028	30,126
2	大手前交差点	41,281	37,384	36,566	32,049
3	朝日橋南詰交差点※	32,018	32,613	19,127	19,029
4	大将軍橋南詰交差点	35,417	34,152	33,000	29,651
5	姫路警察署前交差点	30,539	28,227	27,096	24,527
6	朝日橋北詰交差点	18,404	33,912	29,375	27,949
7	白鷺橋交差点	—	32,879	31,293	27,423
8	福沢町交差点	—	—	33,712	31,245

観測日時 平成8年度：平成8年11月19日（火）晴
 平成12年度：平成13年2月21日（水）曇一時雨
 平成16年度：平成16年10月27日（水）曇のち晴れ
 平成20年度：平成20年10月28日（火）晴

資料：姫路市統計要覧

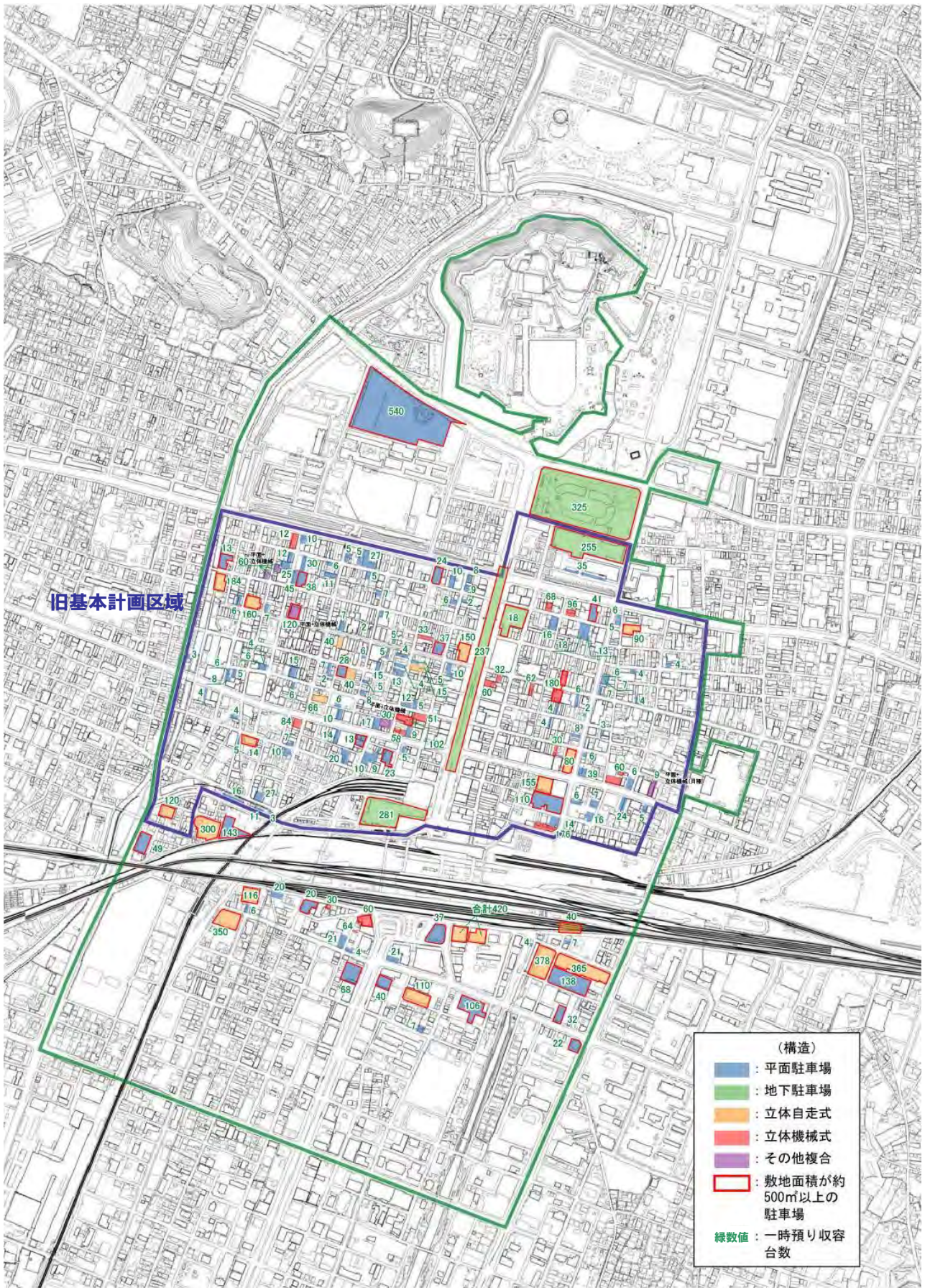
中心市街地の主要交差点での自動車交通量の推移

※朝日橋南詰交差点（姫路駅南）では、平成12年度から平成16年度に10,000台以上減少しているが、これはJR山陽本線等連続立体交差事業に伴い暫定道路になっている影響と考えられる。

5) 中心市街地の駐車場収容台数は約8,300台

平成20年度調査では、中心市街地内の一時預り駐車場の箇所数、収容台数は166箇所、8,271台となっている。

駐車場の機能、規模で見ると、姫路城周辺やJR姫路駅周辺、大手前通り沿道などでは、観光客や中心市街地利用者を主な対象とする収容台数100台以上の大規模駐車場が多く存在しているが、その他の旧基本計画区域では、中小規模の駐車場が数多く存在する。



中心市街地での駐車場整備状況

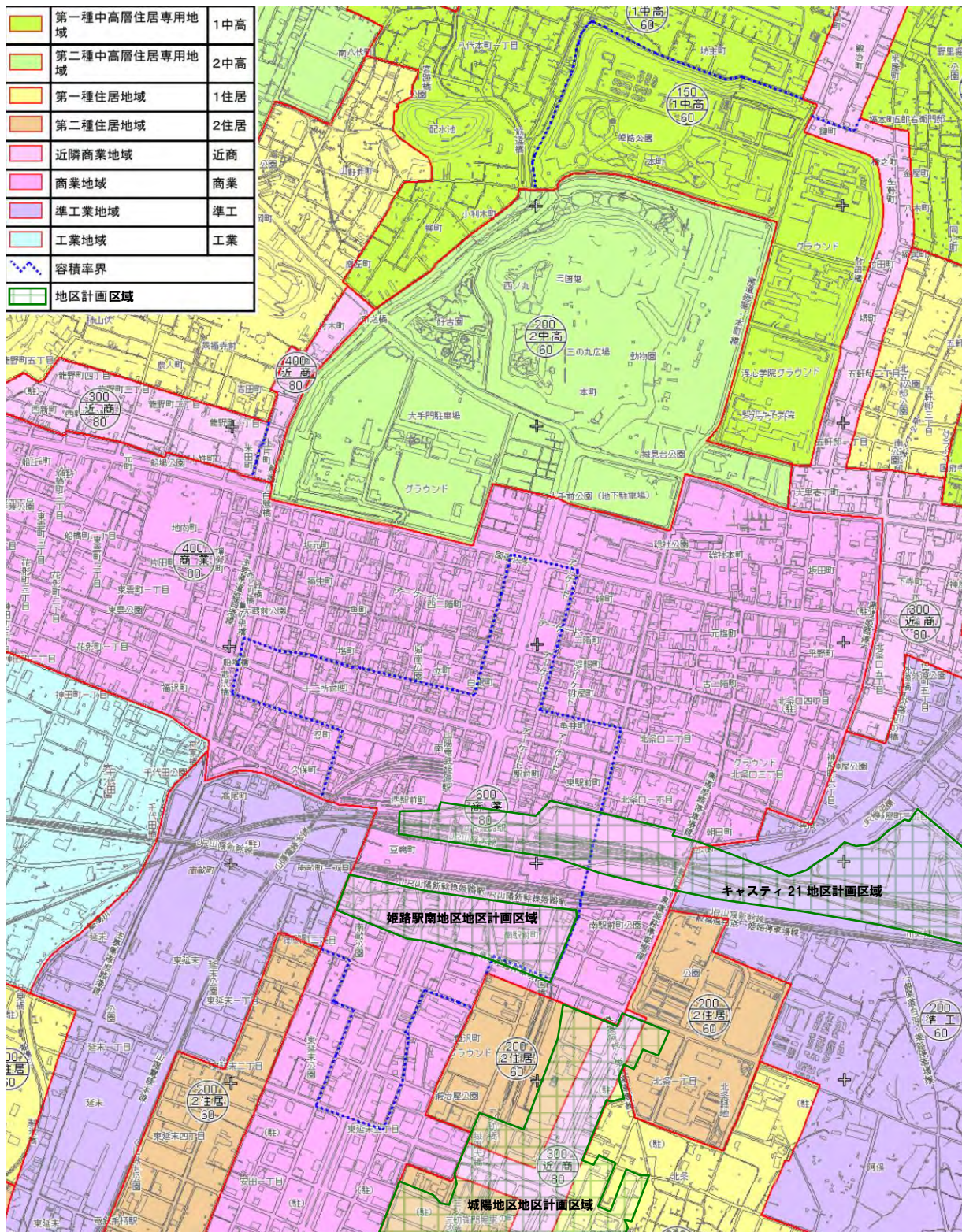
資料：姫路市調査（平成20年）

⑤土地利用に関する状況

1) 中心市街地の大半は商業系用途地域が指定されている

中心市街地では、姫路駅を中心に広範な範囲に商業系用途地域が指定されており、駅周辺及び大手前通り・駅南大路沿道では、容積率が600%に指定されている。商業系地域の北側には中高層住居系、南側には住居系用途地域が指定され、一部には準工業地域も存在する。

また、駅周辺において複数の地区計画が都市計画決定されている。

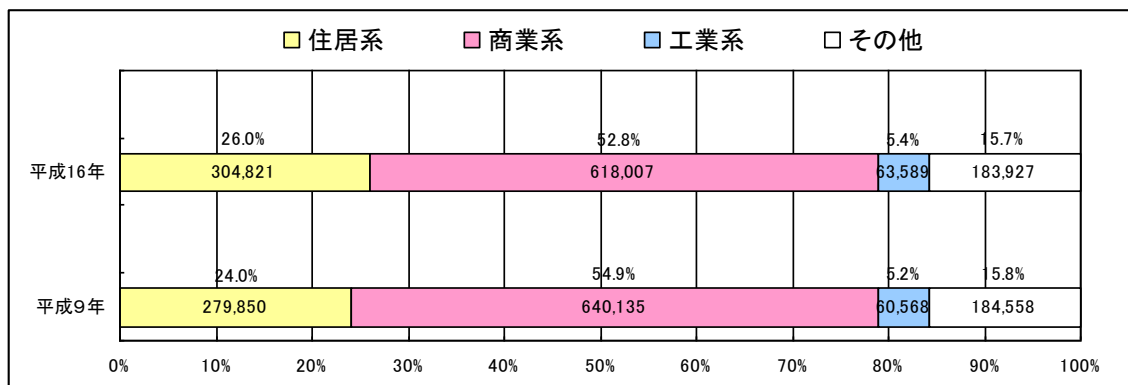


中心市街地における用途地域等指定状況

2) 駅北側中心市街地では商業系床面積が微減し、住居系床面積が微増

平成9年度と平成16年度の駅北側中心市街地内での用途別建物延床面積をみると、商業系が構成比55%から53%に減少（-22,128 m²）し、住居系が24%から26%に増加（+24,971 m²）している。

駅北側中心市街地における用途別建物延床面積の推移（単位：m²）

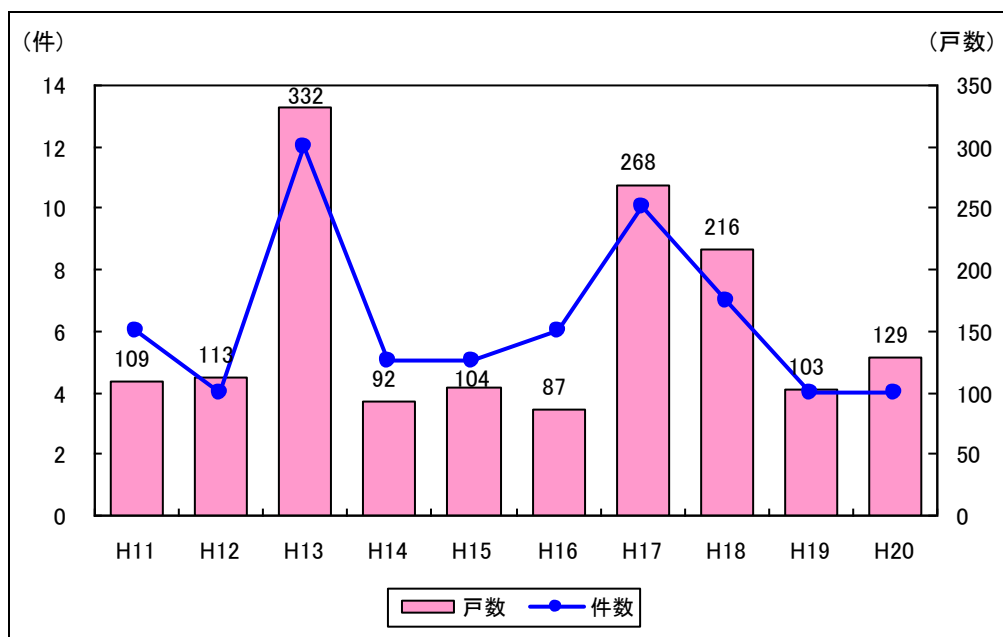


資料：都市計画基礎調査データ

3) 中心市街地では平均155戸/年のペースで共同住宅が供給されている

平成11年度から平成20年度までの共同住宅の建設（建築確認申請）は、中心市街地で63件1,553戸にのぼり、年平均に換算すると6件/年、155戸/年となっている。

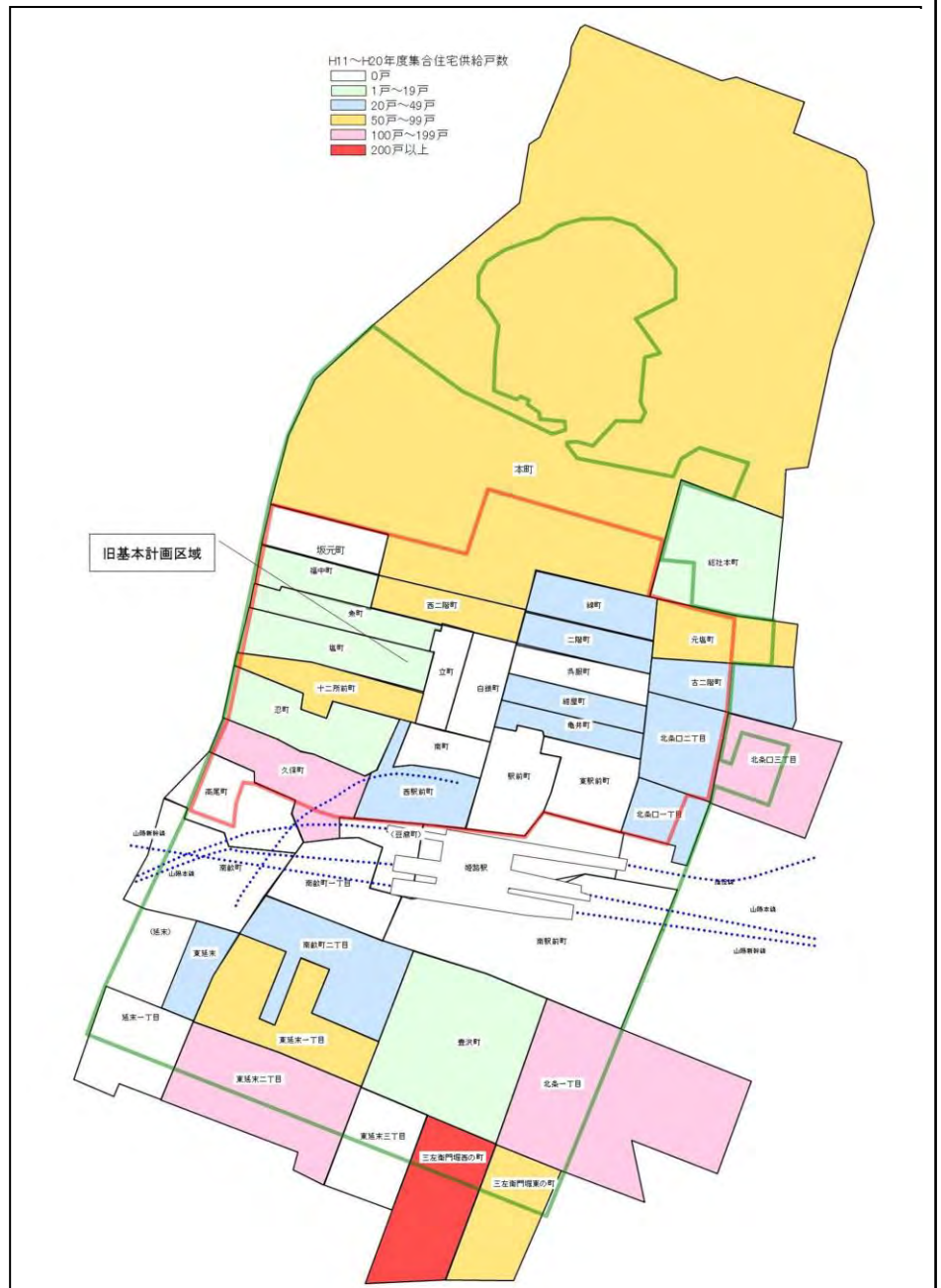
一定の住宅供給があるにもかかわらず人口が減少している要因としては、郊外への転出や高齢化の進展のためと推察されるほか、駅周辺の地価が高く、新規供給物件の多くがワンルーム～1DKであることも影響している。しかしながら、近年は、市郊外部と比べてやや割高ではあるが、ファミリー向けマンションの建設も増えている。



中心市街地での共同住宅建設状況の推移

資料：姫路市資料

また、町別の建設戸数を整理すると右図のようになり、商業業務機能の中心となっている JR 姫路駅を取り巻く区域で建設が行われていることがわかる。



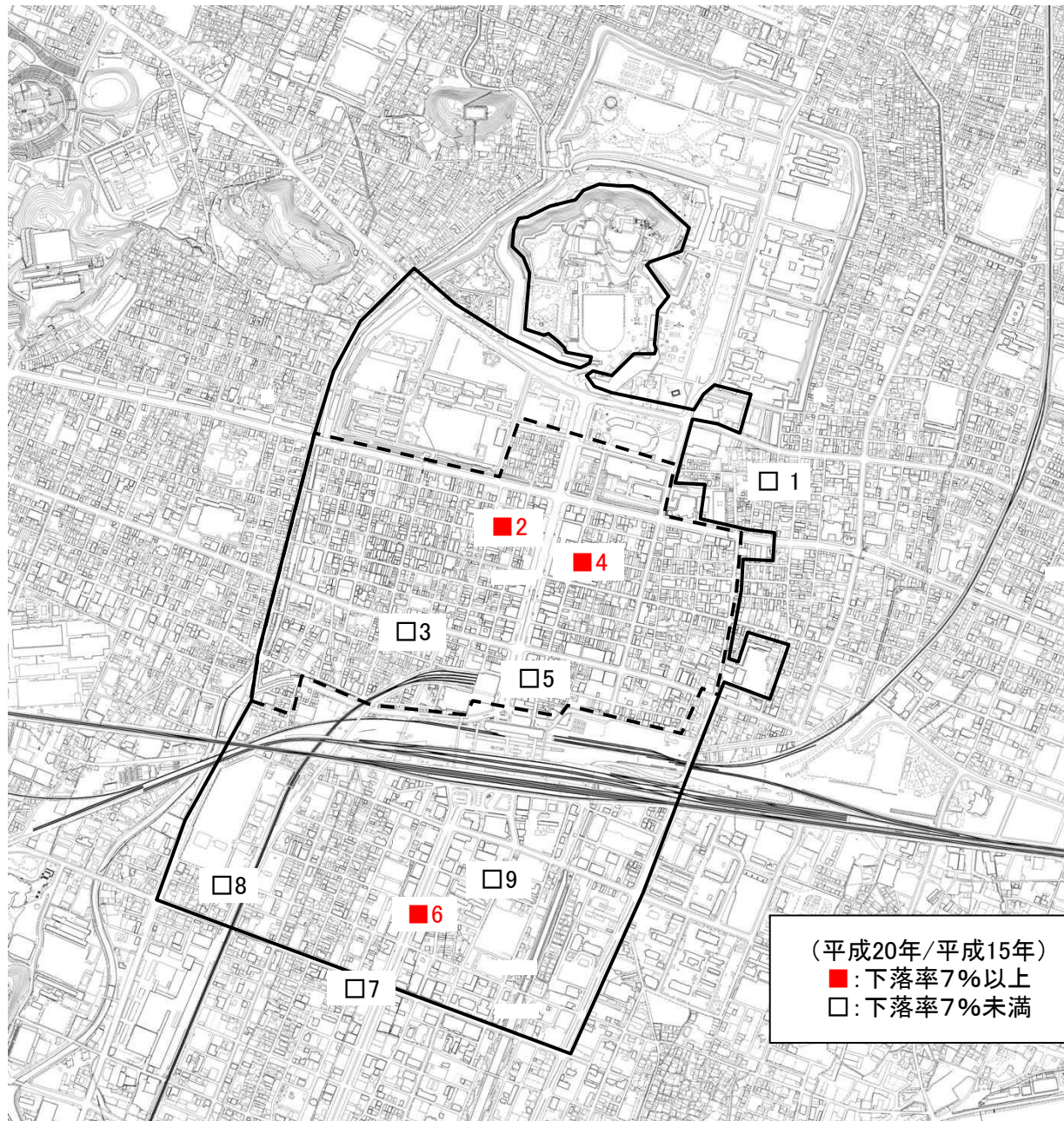
平成 11 年度～平成 20 年度の町別の新築共同住宅建設戸数

資料: 姫路市資料

4) 中心市街地の地価は下げ止まり傾向にあるが、郊外と比較すると高い水準にある地価は下落傾向が続くが、この1年で下げ止まりの兆候もうかがえる。

中心市街地の地価水準は、郊外(数万円～10万円/㎡)に比べて高い水準にあり、特に姫路駅前商業地では約90万円/㎡となっている。

	所在地	用途地域等	姫路駅からの距離	1㎡当りの価格(円)						H15~20年 平均下落率 (%/年)
				平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	
1	総社本町172外	商業・準防 (80/400)	1,200m	138,000	126,000	116,000	114,000	114,000	114,000	3.5%
2	西二階町23番	商業・防火 (80/400)	600m	262,000	211,000	170,000	160,000	154,000	151,000	8.5%
3	忍町88番外	商業・防火 (80/600)	500m	420,000	340,000	285,000	275,000	275,000	275,000	6.9%
4	呉服町32番	商業・防火 (80/400)	400m	925,000	730,000	588,000	540,000	532,000	532,000	8.5%
5	駅前町252番	商業・防火 (80/600)	100m	1,400,000	1,140,000	950,000	900,000	900,000	925,000	6.8%
6	東延末1丁目4番	商業 (80/600)	450m	765,000	591,000	490,000	460,000	460,000	465,000	7.8%
7	東延末2丁目25番外	商業 (80/400)	700m	292,000	240,000	204,000	195,000	195,000	198,000	6.4%
8	延末1丁目100	準工 (60/200)	300m	135,000	122,000	112,000	106,000	104,000	103,000	4.7%
9	豊沢町129	商業 (80/600)	300m	342,000	280,000	240,000	230,000	230,000	230,000	6.5%



中心市街地の地価公示価格の推移

資料：国土交通省土地総合情報ライブラリーホームページ

5) 播磨地域の中核都市にふさわしい公共公益施設の集積

市民生活に密着した公的なサービス施設としては、山陽百貨店内に駅前市役所があり、営業時間も午後7時30分までと長く、市民生活の利便性向上に寄与している。

国、県、市ほかの施設については、兵庫県姫路総合庁舎、兵庫県旅券事務所姫路出張所（ヤマトヤシキ内）、国際交流センター・男女共同参画推進センター（イーグレひめじ内）、財団法人西播地域地場産業振興センター等がある。また、国の出先機関、市役所、商工会議所等は中心市街地外縁部に立地している。

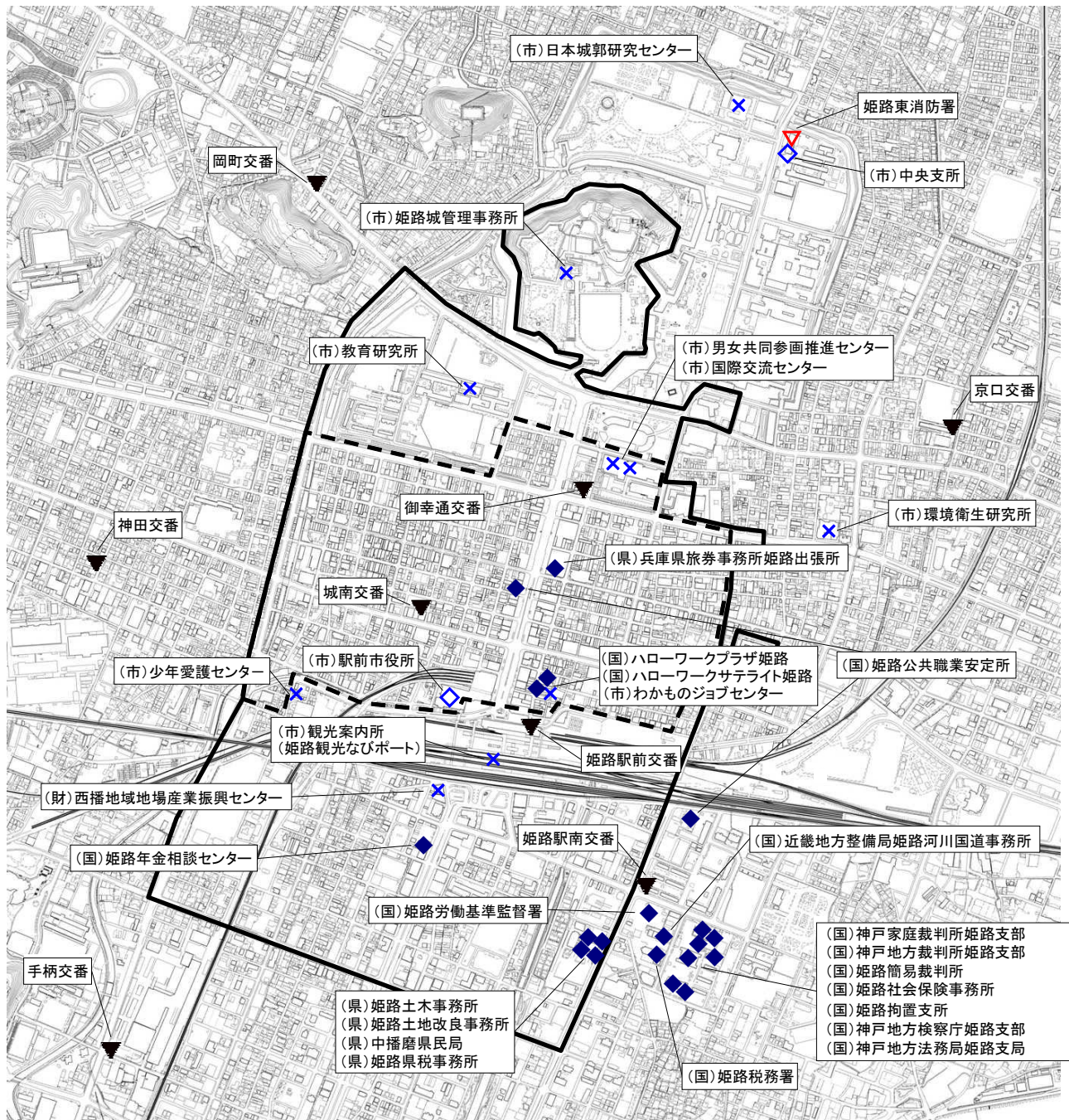
文化、観光、コミュニティ施設については、市民会館、姫路キャスパホール、姫路市観光案内所（姫路観光なびポート）、市民プラザ（イーグレひめじ内）があり、市の集会施設として、城南公民館に加え、平成21年度には城巽公民館が整備完了の予定である。また、中心市街地外縁部に、美術館、姫路文学館、歴史博物館、日本城郭研究センター、城内図書館等が立地している。

教育施設については、姫路聴覚特別支援学校、兵庫県播磨高等学校がある。また、小中一貫教育推進モデル校として白鷺小学校、白鷺中学校での取組が平成21年4月から始まっている（白鷺小学校は、城南・城巽の2小学校を廃止し、城南小学校の位置に新設）。なお、これに伴い城巽小学校跡地に（仮称）姫路市立総合教育センターの整備を予定している。また、中心市街地外縁部に、県立の姫路東・姫路北高等学校、私立の淳心学院、賢明女子学院が立地している。

医療福祉施設については、病院、診療所が多数立地し、高齢者福祉施設及び保育所・託児所が数ヶ所ある。また、中心市街地外縁部には、独立行政法人国立病院機構姫路医療センター、保健所、中央保健福祉サービスセンター等がある。

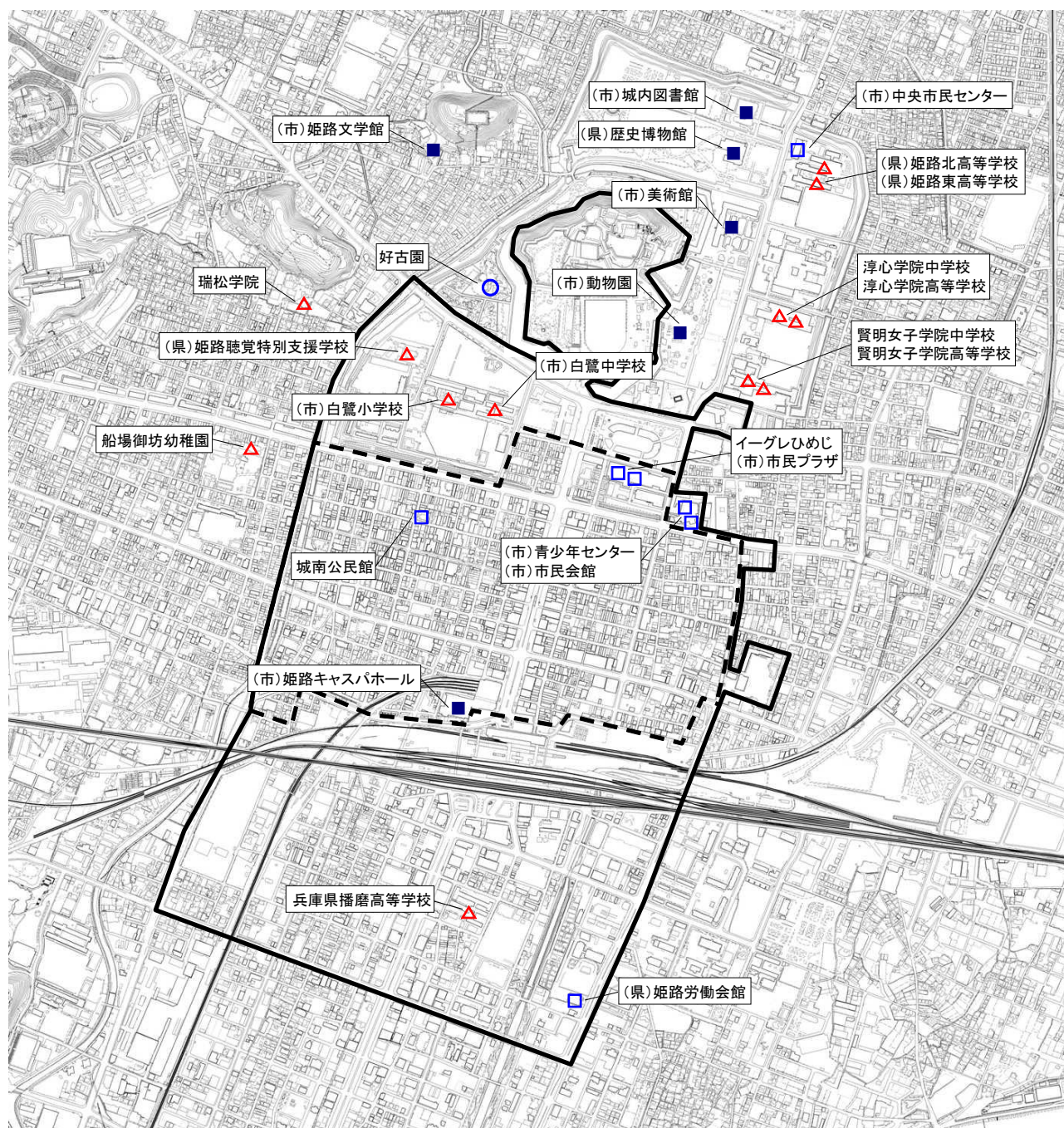
このように中心市街地とその周辺部をあわせると姫路市はもとより播磨地域の中核にふさわしい施設が相当数集積しており、これらの施設の利用者を中心市街地内の商店街等に引き込むよう、イベントとの連携や情報発信を行っていくことが必要と考えられる。

また、中心市街地を居住地として見た場合、少子高齢化が著しいことから、子育て支援や高齢者向け福祉施設の充実、また、住宅地としての活気やにぎわいを取り戻すための街なか居住者のコミュニティ育成や各種の活動に資するような集会施設の充実も必要と考えられる。



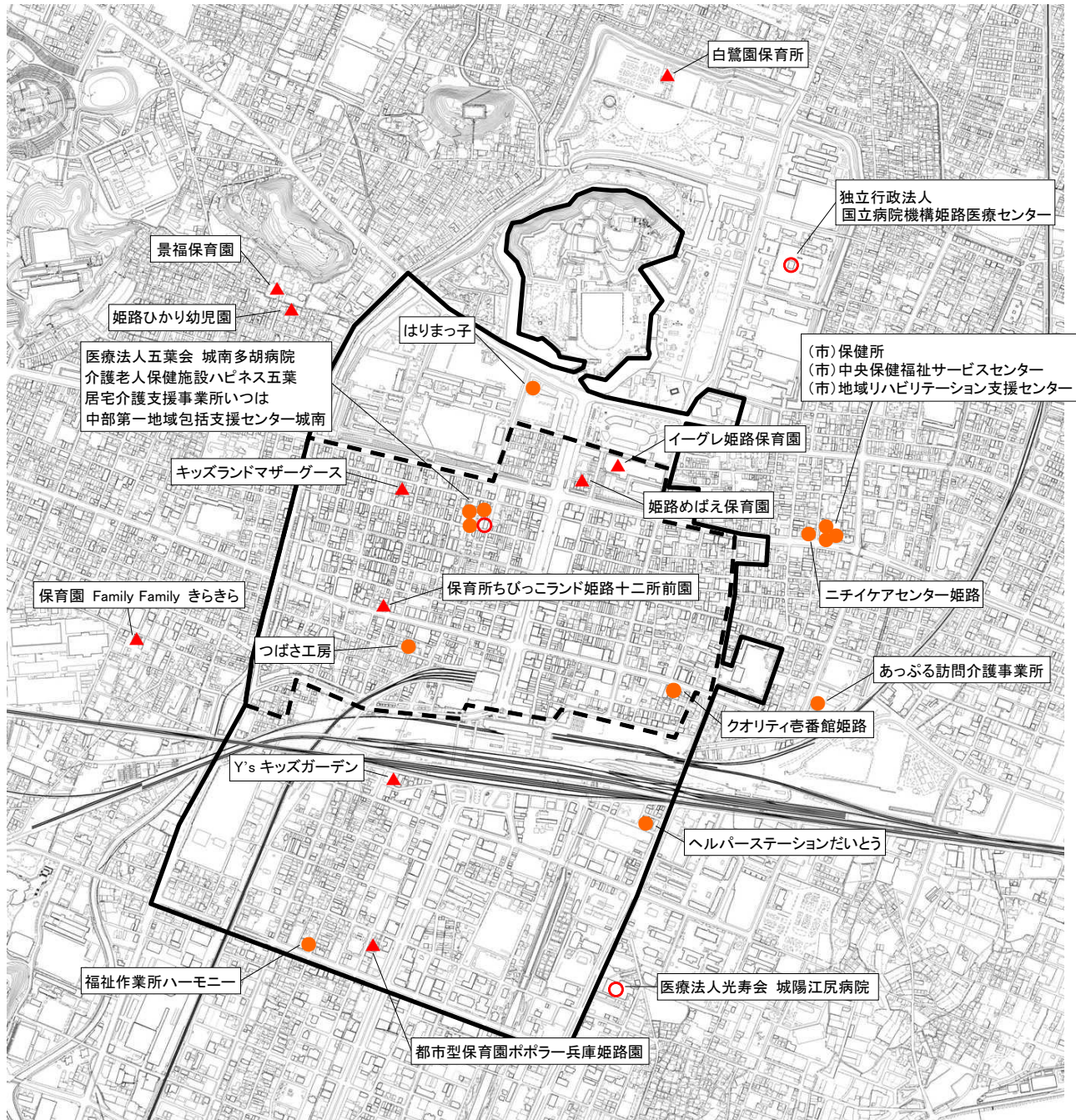
- ▼ 警察署・交番
- ▽ 消防署
- ◆ 国、県の施設
- ◇ 支所
- × その他の施設

行政サービス・その他施設の分布



- △ 教育施設 【幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校】
- 文化施設 【文化施設・美術館・博物館・図書館】
- コミュニティ施設 【会館・公民館】
- その他施設

教育・文化・コミュニティ施設の分布



- 病院施設 【病院施設】
- 福祉施設 【保健所・保健福祉サービスセンター・障害者福祉施設・老人福祉施設・介護福祉施設・地域包括支援センター】
- ▲ 育児・児童施設 【保育所・認可外保育施設】

医療・福祉関連施設の分布

〔4〕地域住民のニーズ等の把握・分析

(1) 中心市街地の住民の意識（平成19年11月～12月）

- ・対象者：中心市街地内居住者 500名
(無作為抽出による直接または郵送配布、郵送回収)
- ・回収率：50.4% (252通)
- ・回答者性別：男性 33.7%、女性 46.4%、無回答 19.9%
- ・その他属性：回答者の50%以上が60歳以上、同55%以上が居住年数30年以上

①交通や買物利便性の高さが中心市街地に居住する魅力とする一方、活気がないことを懸念

居住地としての中心市街地の魅力としては、「交通の便が良い(86.9%)」、「買物が便利(77.4%)」の2項目が圧倒的に多く、その他の項目と比べて突出している。第3位は「歴史を感じる」であり、その他の項目は概ね20%前後と評価が低い。

悪い点としては、「活気がない」が最も多く64.3%であり、次いで「防犯面が不安」が44.8%、「環境が悪い」34.9%となっている。「近所づきあいが希薄」、「街並みが汚い」も各々約25%前後であり、課題は多いといえる。

中心市街地の住みごこちに関する回答集計結果

□		全体		20代～40代	50代～64歳	65歳以上
		人数	割合	割合	割合	割合
良い点	1. 交通の便が良い	219	86.9%	84.1%	90.3%	86.0%
	2. 買物が便利	195	77.4%	65.9%	72.0%	88.8%
	3. 道路、公園が使いやすい	56	22.2%	15.9%	20.4%	26.2%
	4. 施設が整っている	54	21.4%	22.7%	23.7%	17.8%
	5. 歴史を感じる	82	32.5%	25.0%	33.3%	34.6%
	6. 近所づきあいがよい	57	22.6%	11.4%	29.0%	22.4%
	7. 治安が良い	46	18.3%	11.4%	9.7%	28.0%
悪い点	8. 娯楽施設が少ない	35	13.9%	15.9%	12.9%	12.1%
	9. 防犯面が不安	113	44.8%	34.1%	49.5%	43.9%
	10. 活気がない	162	64.3%	63.6%	64.5%	65.4%
	11. 近所づきあいが希薄	61	24.2%	18.2%	17.2%	33.6%
	12. 街並みが汚い	65	25.8%	29.5%	20.4%	27.1%
	13. 歴史等が活かされていない	74	29.4%	38.6%	26.9%	28.0%
	14. 環境が悪い	88	34.9%	34.1%	31.2%	38.3%
	15. その他	15	6.0%	6.8%	8.6%	3.7%
	無回答	2	0.8%	0.0%	1.1%	0.9%
	合計	252	-	-	-	-

(人数) (44人) (93人) (107人)

②現在の中心市街地居住者の居住継続意向は非常に高い

居住継続意向を示す回答が全体の80%を超えている一方で、引越しを希望する回答は4.4%に留まっていることから、居住継続意向は極めて高いといえる。

中心市街地への継続居住意向に関する回答集計結果

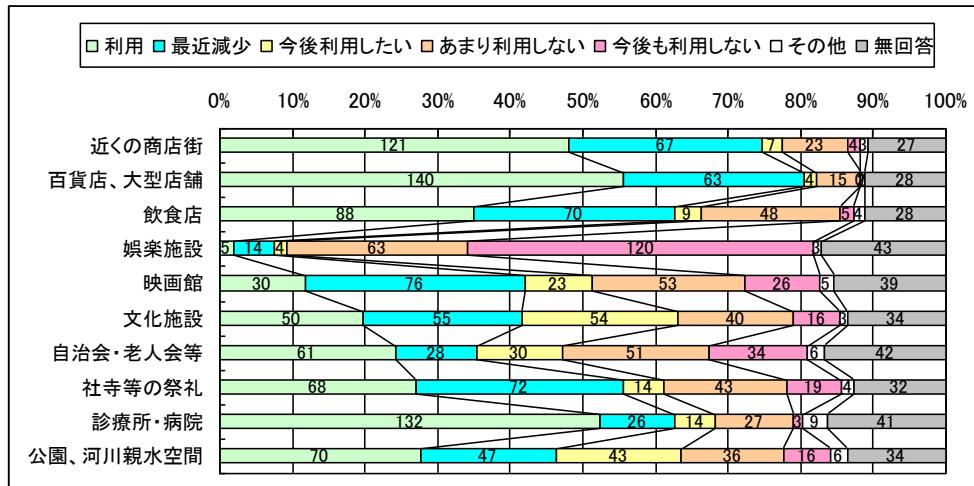
	全体		20代～40代	50代～64歳	65歳以上	70歳以上
	人数	割合	割合	割合	割合	割合
1. 絶対に住み続けたい	38	15.1%	13.6%	10.8%	20.6%	21.4%
2. 事情が無い限り住み続けたい	169	67.1%	61.4%	69.9%	67.3%	70.0%
3. どちらとも言えない	32	12.7%	18.2%	11.8%	11.2%	7.1%
4. 出来れば引っ越したい	8	3.2%	4.5%	5.4%	0.9%	1.4%
5. 今すぐにも引っ越したい	3	1.2%	2.3%	1.1%	0.0%	0.0%
	無回答	2	0.8%	0.0%	1.1%	0.0%
	合計	252	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(人数) (44人) (93人) (107人) (70人)

③買物関係では中心市街地の施設を利用する比率が高く、映画館や娯楽施設の利用比率は低い

中心市街地に立地する施設別の利用頻度及び今後の予測を質問した結果、百貨店・大型店舗、商店街の利用比率が大きく、その後に診療所・病院、飲食店、公園・河川親水空間、社寺等の祭礼が続いている。

映画館や娯楽施設の利用比率は低く、映画館はレンタルビデオ・DVDの普及及び近隣都市におけるシネマコンプレックス等の立地による需要の流出、娯楽施設は中心市街地内外にかかわらず施設そのものを利用するか否かの嗜好性による、などの点が原因と考えられる。



中心市街地の施設利用や行事への参加に関する回答集計結果 (人数)

④暮らしやすい居住環境の確保や都市機能集積を図る一方で、姫路城を中心とした都市景観形成を望む声が多い

中心市街地の現状に満足している人の比率は少なく、商業、観光、業務機能などの都市機能充実を進めるべきと考える人が多い。その一方で、建物の意匠・形態規制などを実施し、姫路城を中心とした良好な都市景観形成を充実させるべきとの意見が多い。

中心市街地において充実させたい機能、施設に関する回答集計結果

	全体		20代～40代	50代～64歳	65歳以上
	人数	割合	割合	割合	割合
1. 大型店舗や娯楽施設	78	31.0%	29.5%	31.2%	30.8%
2. 観光施設や宿泊施設	61	24.2%	31.8%	29.0%	16.8%
3. 行政施設や会社等の働く場	57	22.6%	31.8%	23.7%	17.8%
4. 誰もが暮らしやすい住環境	110	43.7%	29.5%	41.9%	54.2%
5. 目撃的な変化があっても良い	112	44.4%	34.1%	45.2%	47.7%
6. 現在の状態で十分である	4	1.6%	2.3%	1.1%	1.9%
7. その他	11	4.4%	9.1%	2.2%	2.8%
無回答	8	3.2%	0.0%	4.3%	2.8%
合計	252	-	-	-	-

(人数) (44人) (93人) (107人)

中心市街地の望ましい将来像に関する年齢層別回答集計結果

	全体		20代～40代	50代～64歳	65歳以上
	人数	割合	割合	割合	割合
1. 高層ビル等の建ち並ぶ近代的なまちなみ	11	4.4%	0.0%	3.2%	7.5%
2. 地域別に高層・低層建物を集積	68	27.0%	40.9%	22.6%	27.1%
3. 高さ規制をして低層建物を集積	88	34.9%	27.3%	35.5%	35.5%
4. 看板等の統一	56	22.2%	13.6%	23.7%	26.2%
5. 姫路城地域の規制強化・徹底	169	67.1%	70.5%	66.7%	66.4%
6. 成り行きに任せる	6	2.4%	6.8%	1.1%	1.9%
7. その他	20	7.9%	6.8%	8.6%	6.5%
無回答	7	2.8%	0.0%	3.2%	2.8%
合計	252	-	-	-	-

(人数) (44人) (93人) (107人)

⑤今後の活性化に向けては、都市福利施設の充実とともに、駐車場等の都市基盤施設、観光施策の強化、官民協働のしくみづくりなどを求める意見が多い

今後の活性化に向けては、世代を問わずに都市福利施設の充実を求める声が多い。また、活性化に向けて観光機能の強化や自動車交通の利便性向上を求める声も多いが、後者については年齢層で大きく異なり、高齢者での回答比率は少なくなる。

中心市街地の活気を取り戻す方策に関する年齢層別回答集計結果

	全体		20代～40代	50代～64歳	65歳以上
	人数	割合	割合	割合	割合
1. 居住者増加のための住宅・住環境施策	77	30.6%	31.8%	34.4%	29.0%
2. 高齢者福祉施設・子育て支援施設等の充実	129	51.2%	59.1%	44.1%	56.1%
3. 行政・商業団体等の強力な施策	94	37.3%	40.9%	41.9%	32.7%
4. 集客力の強い祭り等の企画・実施	65	25.8%	31.8%	26.9%	22.4%
5. ネット等による情報の受発信	17	6.7%	22.7%	3.2%	3.7%
6. 商店主のやる気向上	98	38.9%	34.1%	36.6%	45.8%
7. 土地等の集約等や流動化の推進	33	13.1%	6.8%	15.1%	15.0%
8. 公共交通等の充実・バリアフリーの道づくり	88	34.9%	38.6%	37.6%	32.7%
9. 車の利便性向上のための道路・駐車場等の充実	72	28.6%	43.2%	24.7%	28.0%
10. 徹底した観光地化を図る施策	107	42.5%	52.3%	47.3%	35.5%
11. 行政・市民・各種団体等の連携	99	39.3%	38.6%	32.3%	47.7%
12. 何もしなくて良い	6	2.4%	0.0%	1.1%	4.7%
13. その他	8	3.2%	6.8%	4.3%	0.9%
無回答	11	4.4%	0.0%	5.4%	2.8%
合計	252	-	-	-	-

(人数) (44人) (93人) (107人)

(2) 姫路市広域消費動向調査報告書(平成19年3月 姫路市)による来街者意識調査

- ・対象者：中心市街地来街者 315名 (直接面談アンケート)
- ・回答者性別：男性 35%、女性 65%
- ・その他属性：市内居住者 67%、市外居住者 33%

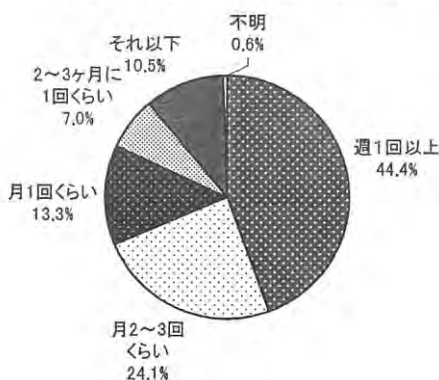
①中心市街地は日常的な買い物利用が大半。平日は回遊する人は少ないが、休日は回遊客もある程度いる

買い物目的が大半であり、滞在時間が平日は1～2時間未満、休日でも2～3時間未満が多く、買い物を済ますと帰宅している人が多いと考えられる。

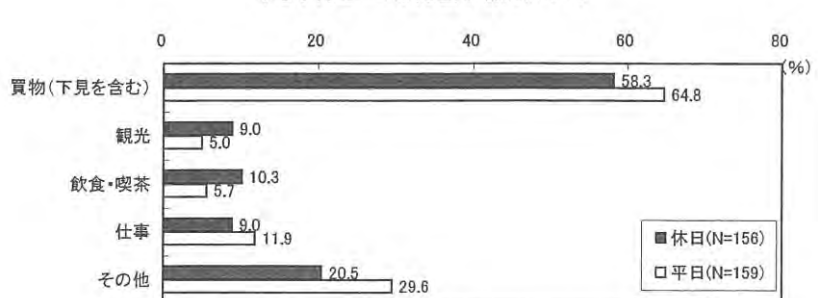
買い物の内容は、食料品・婦人服が圧倒的に多く、来街頻度の高い人が多いため、日常的な買い物目的の人が大半であったものと想定される。

休日は、3時間以上滞在が約44%、5時間以上滞在が約17%と回遊客が多くなっている。

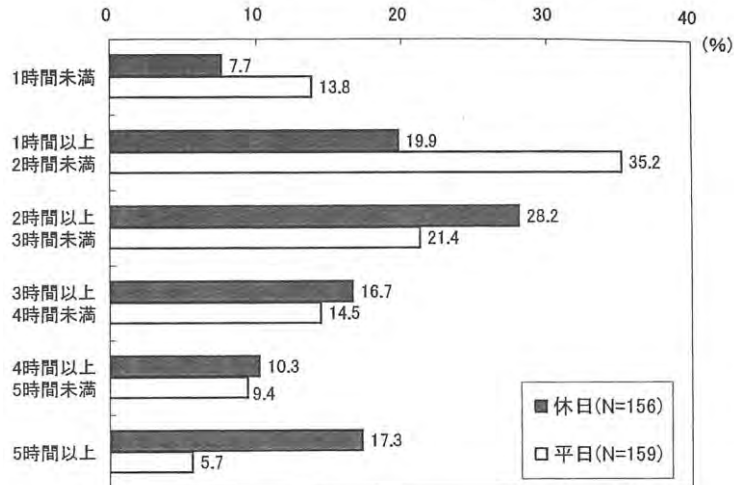
中心市街地への来街頻度(N=315)



中心市街地への来街理由・目的(N=315)

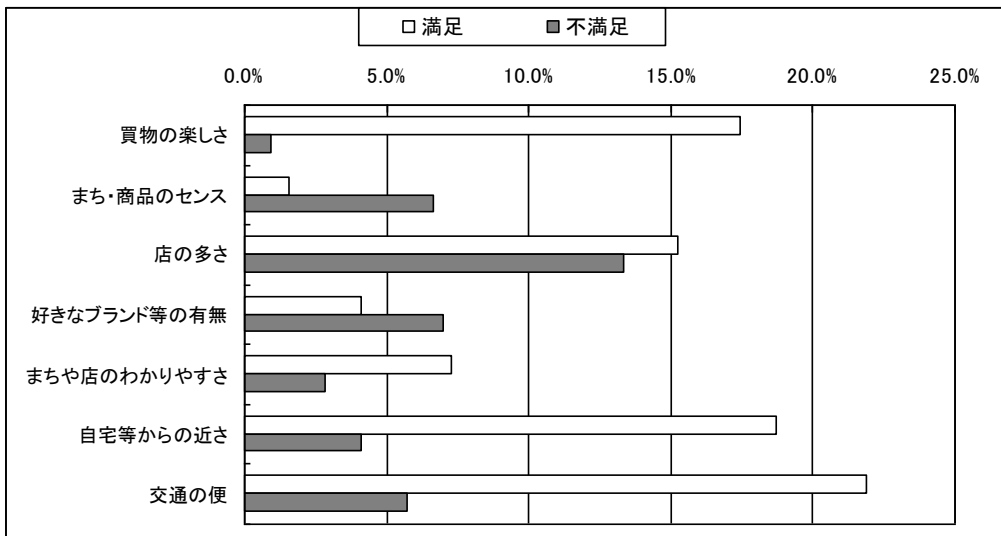


中心市街地での滞在時間



②店の多さ・楽しさや利便性で中心市街地を購物場所を選択しているものの、もっと魅力的な商業地であってほしいとの不満もある

中心市街地の魅力として自宅等からの利便性や交通の便、買物の楽しさ、店の多さをあげる回答が多い一方で、まち・商品等のセンス、欲しい商品の有無では不満の声も相対的に多い。



中心市街地における項目別満足度（複数回答、比較できる項目のみ抽出）

この他、10%以上の回答比率となっている項目は以下のとおりである。

- 満足
 - ・ 姫路の中心地である 26.0%
 - ・ なじみの店がある 22.2%
 - ・ 品揃えがよい 17.8%
- 不満足
 - ・ 遊ぶところが少ない 13.0%

〔5〕中心市街地の課題

(1) これからのまちづくりと中心市街地が果たす役割

①まちづくりにおいて考慮すべき社会・経済潮流

○わが国における人口減少・少子高齢社会の到来

- ・わが国では、既に人口減少・少子高齢社会を迎えており、人口減少等による活力の低下が懸念されている。また、様々なライフステージ、ライフスタイルに応じて居住地を選択する傾向が強まっている。
- ・このような潮流に対して、まちづくりにおいては、都市機能の集積をはじめ歴史的・文化的資源等の活用によってまちの魅力を競い合う「都市間競争」に打ち勝つことが必要となる。
- ・また、人口減少等によってまちづくりに対する公共投資の縮減も予測され、既存ストックの活用や「選択と集中」による投資を視野に入れたまちづくりが必要となっている。

○地球温暖化をはじめとする環境問題への対応

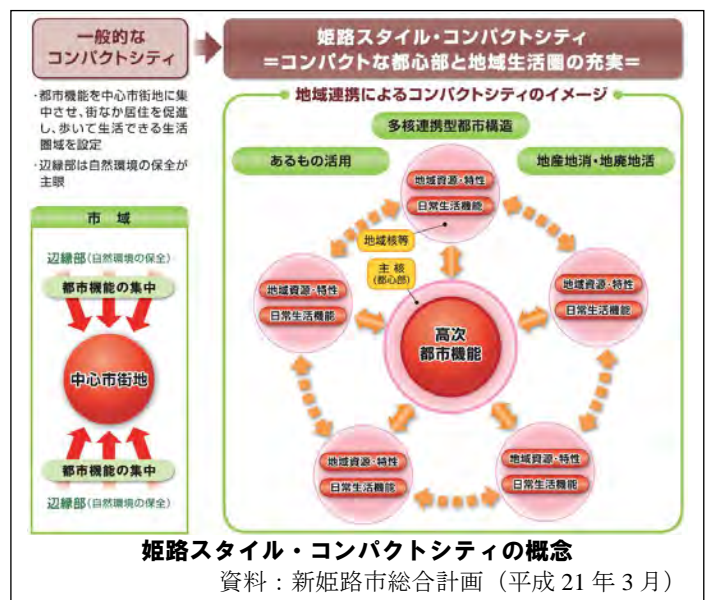
- ・地球環境問題への対応は人類共通の課題であり、環境負荷の小さな都市の実現や交通システムの再編が求められている。

②これからのまちづくりの方向性 ～コンパクトなまちづくり～

- ・上記の社会・経済潮流に対応し、持続的なまちづくりを推進するためには、都市機能の無秩序な拡散に歯止めをかけ、多様な都市機能がコンパクトに集積した、多くの人にとって暮らしやすいまちづくりを推進することが求められている。
- ・この「舞台」としては、商業、業務、居住等の都市機能が集積し、長い歴史の中で文化・伝統を育み、「まちの顔」といえる中心市街地が最もふさわしい場所といえる。
- ・しかしながら、わが国の中心市街地の多くでは、各種都市機能の郊外移転・拡散、居住人口の減少など中心市街地の衰退が進行しており、この活性化を重点的に推進することが急務となっている。

(2) 「まちの顔」としての中心市街地

- ・本市では、「新姫路市総合計画」（平成 21 年 3 月策定）において、コンパクトで充実した各地域生活圏と高次都市機能を有する都心部が有機的に連携・交流する、「姫路スタイル・コンパクトシティ」の構築を目標としている。
- ・中でも、「姫路スタイル・コンパクトシティ」の主核として位置付けられている都心部の中心市街地は、姫路城の城下町から戦後の戦災復興を経て発展してきた地域であり、商



業・業務をはじめとする県下有数の都市機能集積を有するとともに、JR4 路線（山陽新幹線、山陽本線、播但線、姫新線）や私鉄が乗り入れ、バスのターミナルとなっている交通の一大結節点である姫路駅、また、市民の心の拠り所であり、国内外から多くの人々が訪れる世界文化遺産・姫路城という二つの核を擁している。

- ・これら二つの核について、姫路駅は現在周辺整備が進められつつあり、JR 山陽本線等の高架化や関連街路の整備などにより、駅を挟んだ南北交通の円滑化や南北市街地の土地利用の一体化が期待されるとともに、計画期間後半に新駅ビルが完成し、北駅前広場整備が完了する予定である。一方、姫路城は昭和 39 年に完了した解体復元工事、いわゆる「昭和の大修理」以来、45 年振りとなる大修理が平成 21 年度から始まり、平成 26 年度に完成する予定となっている。
- ・中心市街地は、姫路市のみならず、播磨地域の経済的、社会的な中心的役割を果たし、「まちの顔」としての重要な役割を担っており、大きく生まれ変わろうとしている「駅」と「城」を二つの核として、今後とも高次都市機能の向上や国際観光都市にふさわしいまちづくりの推進等により活性化を図っていく必要がある。

（３）中心市街地の課題の整理

以上のように、中心市街地は、「まちの顔」としての重要な役割を担っているが、現況データ等の把握、市民等の意向調査の分析からは、その役割が低下しつつあることが伺える。

そこで、活性化に向けた課題を以下に整理するが、役割が低下している原因として、「**まちの魅力の低下**」が挙げられるものと考えられる。ここでは、旧基本計画の検証や現況データ等の把握、市民等の意向調査によって明らかになった課題について、「まちの魅力」という視点から整理を行うこととする。

①商業魅力の低下等がにぎわいと活力低下の一因となっている中心市街地

姫路市及び周辺都市では、全国の他都市と同様に郊外部への大規模小売店舗や複合商業施設の立地により、中心市街地の商業が衰退傾向にある。また、本市は神戸・大阪まで電車にて 1 時間圏内に位置することから、両都市への若年層の消費流出が増加しており、市全体の小売販売額も減少傾向にある。

このように、中心市街地の商業を取り巻く環境が厳しさを増す要因として、郊外や他都市に対する相対的な商業魅力の低下があげられるが、一方で市民アンケート調査から明らかになったように、既存商店街等における品揃えや店舗構成、営業時間などの絶対的な商業魅力も低下傾向にあるものと考えられる。また、業務系事業所数も減少傾向にあり、中心市街地の従業者数減少によって、まちのにぎわい低下に拍車をかけている。

このため、中心市街地における商業魅力の向上や従業者数の回復を図り、にぎわいのあるまちづくりを推進していく必要がある。

②増加傾向にある観光集客を活性化に十分活用できていない中心市街地

国際観光都市づくりの推進等により、姫路城を中心とする観光集客は増加傾向にあり、近年は外国人観光客の増加も顕著である。

しかしながら、姫路城の曲輪から発展した中心市街地には、姫路城以外にも多数の歴史・文化資源が存在しているにもかかわらず、これら資源の発掘や整備、情報発信等が十分ではなく、観光と商業機能の連携も十分でない。このため、姫路城登閣者の街なか回遊状況に関する調査結果が示すように、観光客は姫路城等の目的地のみを訪れて中心市街地を素通りする傾向が見受けられ、観光集客をまちの活性化に十分活用できていない現状がある。

なお、姫路城の「平成の大修理」が平成 21 年度から平成 26 年度までの予定で実施され、大天守が数年間素屋根で覆われるうえ、登閣できない期間も予定されることから、観光集客に及ぼす影響が懸念されている。

このため、世界文化遺産・姫路城を核とする地域特性を最大限に活用しながら、「平成の大修理」期間中ならではの観光集客に取り組むとともに、観光と商業機能の連携を図るなど、観光集客をまちの活性化につなげていく必要がある。

③播磨地方随一の都市機能集積が居住魅力に直結していない中心市街地

本市の中心市街地は、商業をはじめとする都市機能が集積し、播磨地方の中で最も公共交通が発達するなど生活利便性の高い地域であるにも関わらず、平成 10 年から平成 21 年の間に居住人口が 10.1%も減少している。その要因に関しては、住民の意向調査の結果を見ると、「活気がない」と感じている人が多く、また、誰もが暮らしやすい居住環境や都市福祉施設の充実を求める声が多くなっており、居住者にとって居住地としての魅力が必ずしも高くないことが伺える。

このため、まちの活性化にあたっては、観光や商業等による交流人口の増加を推進していくことに加え、まちの活力の源泉となる居住者の増加に向けて、魅力ある居住環境の整備を図るなど、街なか居住の推進によるにぎわいと活力のあるまちづくりを展開していく必要がある。

④誰もが訪れやすく、移動しやすい環境整備が望まれる中心市街地

本市の中心市街地は、公共交通が発達し、JR4 路線、山陽電鉄、神姫バス、市営バス等が乗り入れる一大交通結節点となっているが、鉄道の姫路駅乗車人員は漸減傾向にある。一方、姫路城周辺観光ループバスの乗車人員は順調に増加している状況となっている。また、中心市街地の交通に関する住民の意見としては、車の利便性向上のための道路・駐車場等の充実を望む意見も多いが、公共交通等の充実・バリアフリーの道づくりを望む意見も多い。

このため、中心市街地により多くの人々が訪れ、また、快適に回遊し、長時間滞在できるよう、環境問題への対応も見据え、公共交通の一層の利便性向上や自転車の利用環境の充実など、徒歩と公共交通を中心とした、誰もが訪れやすく、移動しやすい環境整備を進めていく必要がある。

〔6〕 中心市街地活性化の基本的な方針

(1) 中心市街地活性化の考え方

本市の中心市街地の活性化に向けては、中心市街地の課題を踏まえ、播磨地域の中核都市にふさわしい「まちの顔」を形成する大きな要素であるとともに求心力を有する「**城**」と「**駅**」を核としたまちの魅力向上による「**にぎわい**」の創出と「**活力**」の増大を図っていくことで、「**人々が行き交い未来へ息吹く姫路の城下**」を目指すこととし、これを基本的なテーマとして設定する。

その実現に向け、居住環境の充実や、姫路城を核とした観光集客とともに、観光や商業における回遊性を増す施策などを展開することによって、多くの人々が暮らし、国内外の人々が訪れ、多様な目的で集い、楽しく歩くことができるまちづくりを進める。

中心市街地の課題

商業魅力の低下等がにぎわいと活力低下の一因となっている中心市街地

増加傾向にある観光集客を活性化に十分活用できていない中心市街地

播磨地方随一の都市機能集積が居住魅力に直結していない中心市街地

誰もが訪れやすく、移動しやすい環境整備が望まれる中心市街地

中心市街地活性化の基本テーマ

人々が行き交い未来へ息吹く姫路の城下

～城と駅を核としたまちの魅力向上による「**にぎわい**」の創出と「**活力**」の増大～

基本テーマ実現に向けた3つの基本的な方針

行きたい城下

国内外の人々が訪れる
まちづくり

世界文化遺産・姫路城を核に中心市街地内の地域資源の活用により姫路が有する観光面での魅力を高めるとともに、城と調和した洗練されたまちなみ・景観形成、観光サービスの強化等による「もてなし」機能の充実などによって、国内外から多くの人々が訪れるまちづくりを推進する。

にぎわう城下

人々が集い、回遊する
まちづくり

商業魅力の向上や、業務機能の集積などによって、姫路市域や周辺地域の人々をひきつけるとともに、公共交通の利便性向上等による誰もが訪れやすい環境整備を進め、人々が集い、回遊するまちづくりを推進する。

住みたい城下

人々が暮らしたくなる
まちづくり

多様な都市機能が集積し、高い利便性を有する中心市街地の「街なか居住」の魅力さをさらに高めながら、多様な世代が安全で安心して快適に生活できる居住環境の整備を進めることによって、人々が暮らしたくなるまちづくりを推進する。